第２章 地区別復興まちづくり計画

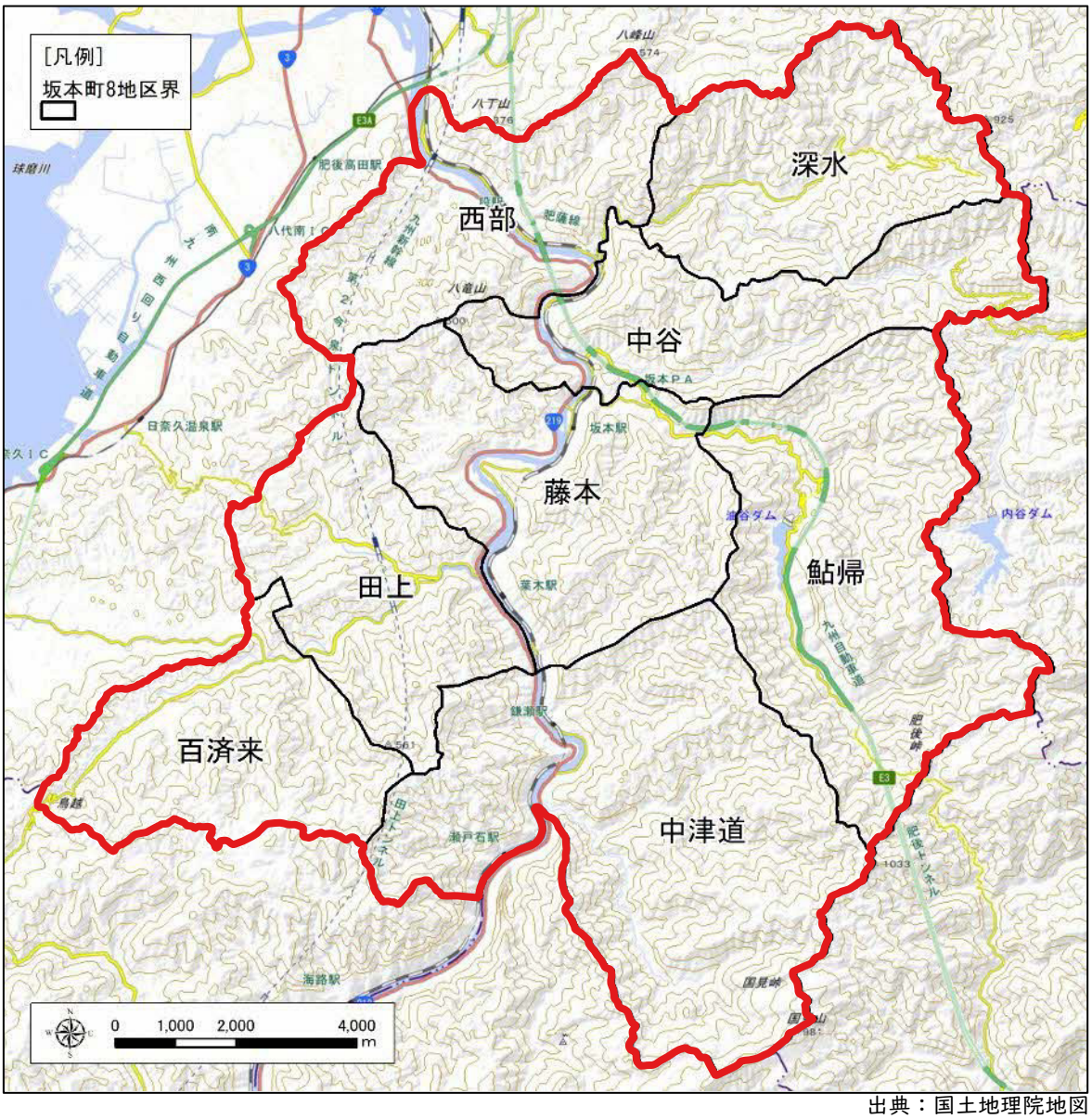
（１）地区別復興まちづくり計画の概要

坂本町は、旧小学校８校区ごとに、それぞれ異なる特性を有しており、令和２年７月豪雨においても、甚大な住家被害等が発生した地区、農業･林業などの経済基盤に大きな被害を受けた地区など、被災状況も様々でした。

令和３年２月に策定した「八代市坂本町復興計画」は、坂本町全体を対象とした計画としていることから、それぞれの地区に応じた地域コミュニティの再生や地域活力の維持・向上など、より具体的な計画として取組むことが重要となります。

このため、地区ごとに「地区別懇談会」を開催して意見交換を行いながら、それぞれの地区における復興に向けた課題や、地域と行政が連携した取組などを検討･整理し、地区別の「復興まちづくり計画」としてとりまとめました。

図３ 地区の位置図



出典：国土地理院地図

（２）地区別復興まちづくり計画の構成

各地区の「復興まちづくり計画」はそれぞれ６ページ（見開き３ページ）で、以下のような構成としています。

図４ 地区別計画の構成



（３）地区別復興まちづくり計画に基づく取組の進め方

住民ひとりひとりが主役となり、坂本住民自治協議会や地域振興会･自治会、市政協力員、八代市などが連携し、外部からの支援をいただきながら一体となって各地区における復興に向けた取組を進めていくこととします。なお、地区別計画は「令和４年３月時点版」であり、引き続き、これらの関係者が連携し、検討を行いながら随時見直していくこととします。

図５ 地区別計画に基づく取組イメージ



地区別懇談会の様子

▼田上地区▼



▼西部地区▼



▼藤本地区▼



▼鮎帰地区▼



▼中谷地区▼



▼中津道地区▼



▼深水地区▼



▼百済来地区▼



Ⅰ．西部地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

自然の豊かさ、市街地の近さを活かした魅力あるまち　西部

川祭りや山の神祭り、古田阿蘇神社、八竜山自然公園遊歩道のほか、サイクリング等の地区の歴史・自然を活用したイベントの開催によるまちの活性化を図ることで活気あるまちの形成を目指します。また、八代市街地との近さを活かした、居住地の確保、公共交通の強化を進めることで多くの人に選ばれるまちを目指します。



▲古田阿蘇神社



▲新幹線の見える憩いの広場

■被害の概要

西部地区は、球磨川や支流の氾濫により、98軒の住家被害が発生しており、甚大な被害を受けました。

その他にも、田畑への土砂流入といった被害も発生しました。

また、各所で道路への土砂・落石・崩壊や河川の護岸の損傷等の被害が発生しています。加えて、河川への落石・土砂の堆積、倒木の流入も発生しました。

▼住家被害状況(り災)

区分	坂本町全域	西部地区
全壊	158	11
大規模半壊	66	17
中規模半壊	10	4
半壊	110	42
準半壊	1	1
一部損壊	94	23
合計	439	98

※令和3年9月末時点



▲古田地区被害状況



▲県道被害状況

■復興に向けた課題

課題1 防災力向上による安心して暮らせる地区づくり

被害のあった道路や河川、施設・家屋の復旧を早急に進めるとともに、避難路の整備、避難所の再検討等、災害に強い地区づくりが必要です。

地区別懇談会などでの意見

- JR肥薩線を早期復旧して欲しい
- 道路・河川の早期復旧が必要
- 道路整備に併せ自転車走行レーンの整備が必要
- 土砂の撤去や砂防ダムを整備して欲しい
- 道路や宅地、全体的なかさ上げが必要
- 避難所の再検討が必要
- ヘリポートが欲しい
- 避難情報等が正確に伝わるような設備にして欲しい　等



※林道袈裟堂深水線舗装状況

課題2 居住地として選ばれる地区づくり

八代市街地に近く、アクセス性の良い地区特性を活かすため、空き家等を活用した住まいの確保、公共交通の整備により通勤・通学がしやすい居住地を形成し、若い世代を含め多くの人に選ばれる地区づくりが必要です。

地区別懇談会などでの意見

- 八代市街地に通勤しやすいが、住む所が少ない
- 今泉地区は住環境もよく災害にも強い、働く場はないが居住地として整備して欲しい
- 人口減少を抑制するため、公営住宅など住宅・宅地の確保が必要
- 空き家の利活用が必要
- 無医地区にならないようにして欲しい
- 若い人を呼び込むことが必要
- 公共交通のルート等を再検討して欲しい　等



※乗合タクシーイメージ写真

課題3 地区の資源・自然を活用した交流促進

川祭りや山の神祭り、どんどや等の地区で開催されるイベントのほか、サイクリングやラフティング等、地区が有する豊かな自然を活用した交流を促す必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- さかもと八竜天文台やくま川ワイワイパーク、新幹線の見える憩いの広場等、周りの観光資源をつなぎ合わせた観光プランの検討が必要
- 運動やイベントができる場所が欲しい
- 古田阿蘇神社や製鉄所跡等を観光資源として活用できないか
- 林道等をアウトドアの観光地として活用できないか
- 鳥獣対策としてジビエ料理の提供などを検討できないか　等



※イベントイメージ写真

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 安心して暮らせる地区創出プロジェクト

○住み続けたい、また移住したくなるような地区になるため、道路や河川等の防災力の向上を目指します。

【具体的な取組】

安全な住まいの再建	・輪中堤もしくは宅地かさ上げによる安全な居住地の確保を図ります。
河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道・林道等については住民との連携により取組を進めます。
避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・（指定緊急避難場所：今泉公民館） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：西部文化財収蔵施設）

プロジェクト2 住環境・住まいの整備プロジェクト

○八代市街地に近く、アクセス性も高い地区特性をアピールするとともに、空選ばれる地区づくりを推進します。

【具体的な取組】

空き家バンク制度の活用	・空き家バンク制度を活用した取組を促進します。また地区において、空き家を活用した取組を進めます。
生活利便施設への移動手段の確保	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。

プロジェクト3 地区特性を活かした観光・交流促進プロジェクト

○地区で開催される川祭りや山の神祭りのイベントの他、サイクリングができ

【具体的な取組】

祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、情報発信を行いながら地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。
地区の資源を活用した取組	・古田阿蘇神社や製鉄所跡、新幹線の見える憩いの広場、湧水等、地区の資源を活用し、賑わいづくりを進めます。 ・ホタルが戻ってくる川の環境づくりを図り、ホタルと綺麗な水辺を活かした観光振興に努めます。 ・川遊びやサイクリング等の自然を利用したツーリズム、地域おこしに向けた地元受入れ体制を構築します。 ・八竜山の登山道やトイレ等、資源活用に係る既存設備の維持・管理を行います。 ・鳥獣対策後の活用として、ジビエ料理の提供などを検討します。 ・地区の自慢となる良好な景色等の写真を地区住民で集め、内外への周知を図ります。

早期復旧を進めるとともに、道路や宅地部分のかさ上げや避難所・避難路の整備等、

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・実施	• 住まいの再建に関する地区ごとの再建意向確認・話し合いの開催	• 居住地・住環境の整備、調整
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 避難場所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成

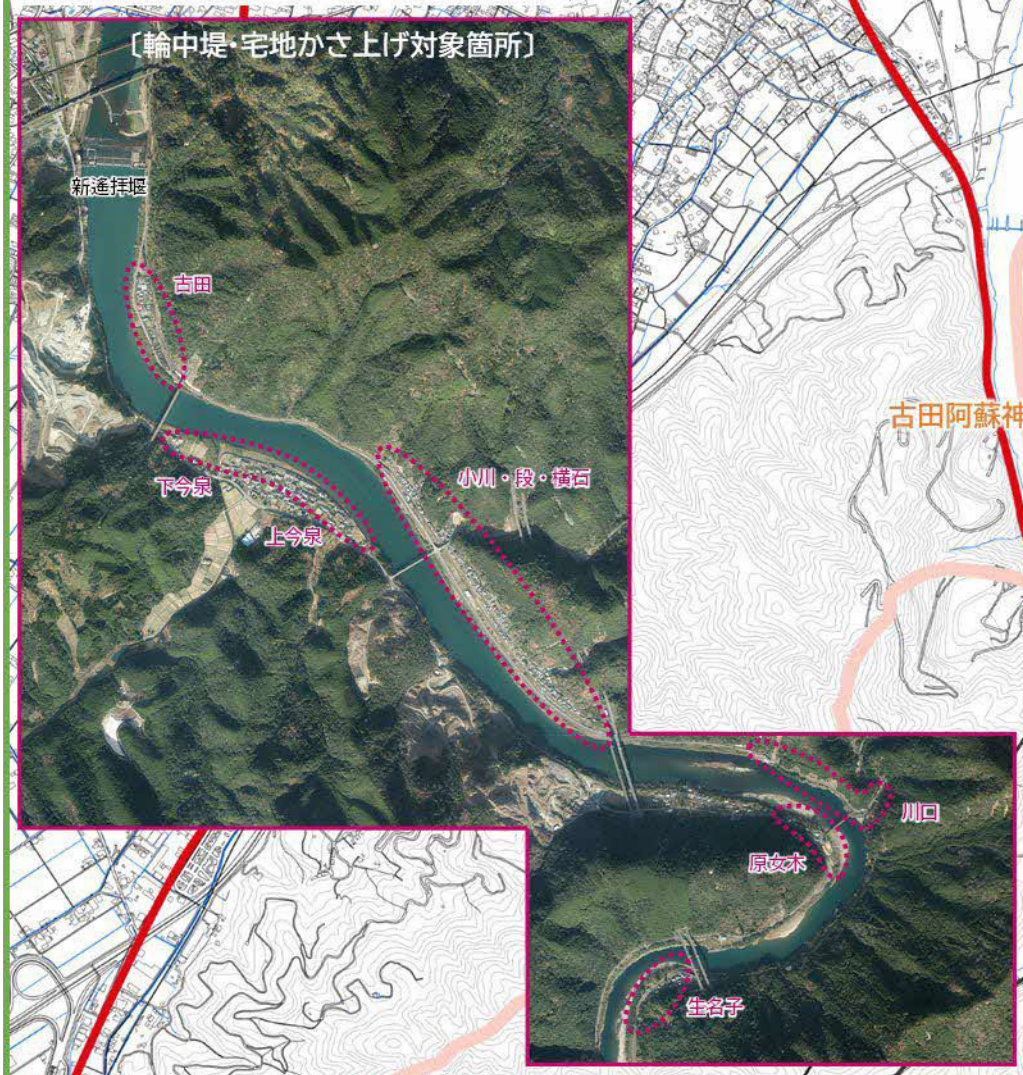
き家の活用や公共交通の利便性向上を進めます。八代市街地へ通勤・通学する若い世代に

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 地域空き家の情報提供、空き家の活用 • 空き家バンク制度への登録促進	• 空き家バンク制度の利用促進・空き家調査
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し

る場所を整備する等、豊かな自然を活かした観光振興につなげていきます。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り等の地域情報の発信
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 古田阿蘇神社や新幹線の見える憩いの広場の保全・管理 • 美しい水辺の維持、景勝地の情報提供 • サイクリング旅行者の受け入れに対する地元協力 • ジビエ料理提供などの検討 • 地区の魅力収集・情報提供	• 絶景スポットや観光情報を掲載したサイクリングロードマップの作成・情報発信など • 自転車走行レーンの整備・検討 • 既存設備の維持・管理 • 食品加工・保存技術等に関する情報提供 • 地域資源の活用・検討

【西部地区】



古田阿蘇神社

市道

古田公民館

今泉公民館

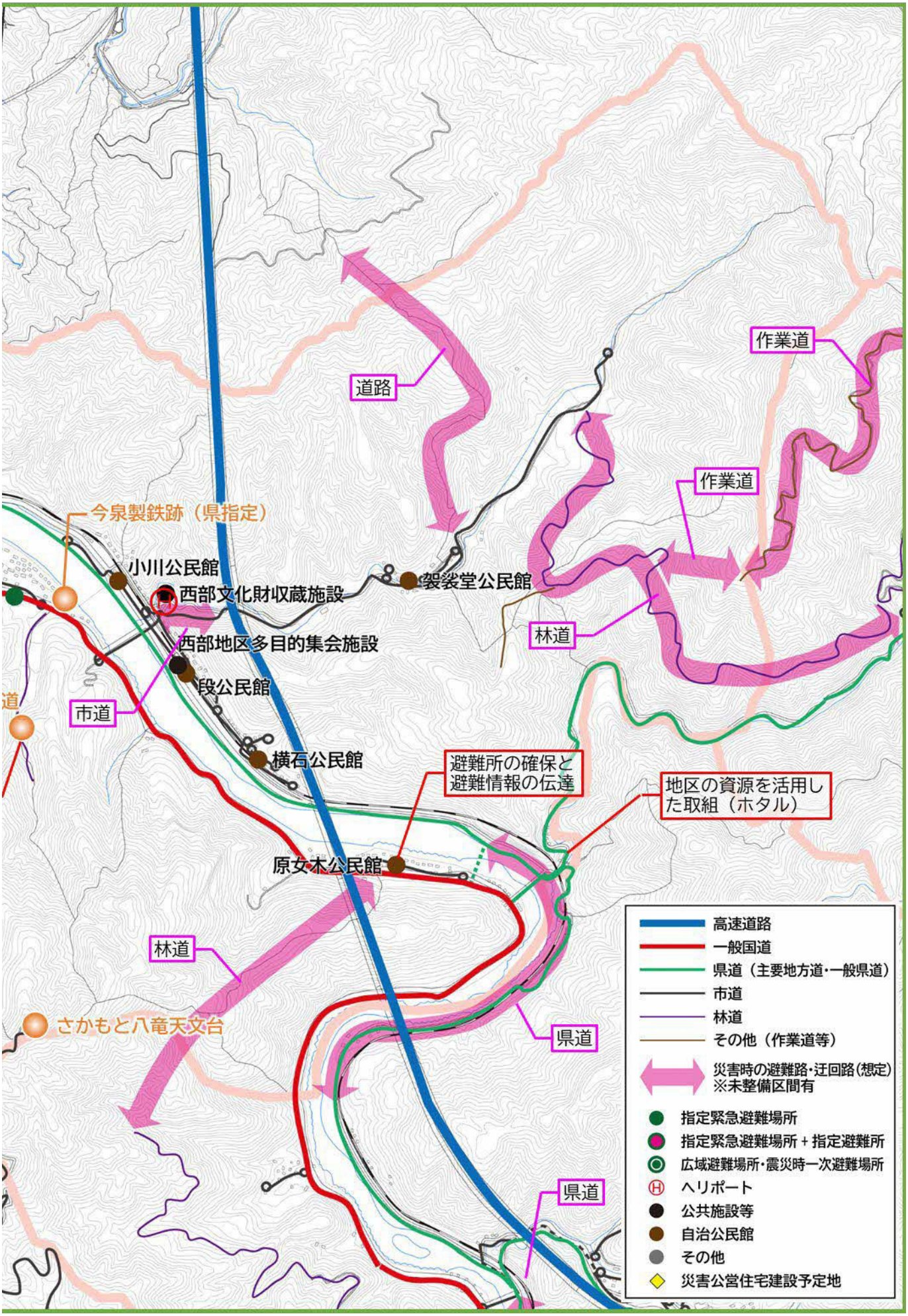
八竜山自然公園遊歩道

地区の資源を活用した取組

新幹線の見える憩いの広場

市道

作業道


道路
作業道
作業道
今泉製鉄跡（県指定）
小川公民館
西部文化財収蔵施設
袈裟堂公民館
西部地区多目的集会施設
林道
段公民館
市道
横石公民館
避難所の確保と
避難情報の伝達
地区の資源を活用した取組（ホタル）
原女木公民館
林道
さかもと八竜天文台
県道
県道
高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路（想定）
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地

2．深水地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

みんなが住みたくなる 自然豊かなまち 深水

安心して暮らせる環境づくりを進めるため、地域防災力と公共交通を強化することにより、みんなが住みたくなるまちの形成を目指します。その他、「走り水の瀧」を活用した観光振興、健康ウォーク等の交流促進を図り、自然豊かなまちを目指します。



▲走り水の瀧(国指定記念物「名勝」)



▲健康ウォーク

■被害の概要

深水地区の被害としては、住家被害は他地区と比べ比較的少なく一部損壊1軒の発生でした。

その他には、県道・市道や河川への土砂の流入・堆積が発生しており、避難時や被災後の通行に影響を及ぼしました。

また、情報通信網が途絶えたことにより、地区内外の被害状況が把握できないといった問題が生じました。

深水橋が流失したことで地区へのアクセス性が低下し、日常生活に支障が出ました。

▼住家被害状況(り災)

区分	坂本町全域	深水地区
全壊	158	0
大規模半壊	66	0
中規模半壊	10	0
半壊	110	0
準半壊	1	0
一部損壊	94	1
合計	439	1

※令和3年9月末時点



▲深水橋流失状況



▲市道被害状況

■復興に向けた課題

課題 1 避難場所・設備、避難路の整備による防災能力の向上

被害のあった道路や河川等の早期復旧を進めるとともに、早急に避難活動ができるよう避難場所及び設備の拡充と避難路の整備を図る必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 深水橋の早期復旧
- 道路を早期復旧して欲しい
- 道路の拡幅が必要
- 道路や川床に土砂が堆積しており、二次災害の危険性もあるため撤去して欲しい
- 深水川の落石を撤去して欲しい
- 避難路の整備を短期で対応できる所から進めて欲しい
- 孤立した際の避難手段としてヘリポートを整備して欲しい
- 定期的に周辺の河川、山林の点検が必要
- 砂防ダムの整備が必要
- 避難場所の再検討が必要
- 防災無線等の通信手段の整備と定期的な点検が必要　等



※市道下深水板ノ平線集水桝浚渫状況

課題 2 観光資源を活かした活気ある地区づくり

「走り水の瀧」の潜在力を活かし、観光振興や地区内外の交流を促進し、活気ある地区づくりを進める必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 山の神祭りや田舎暮らし体験などのイベントを地区で開催していくことが必要
- 走り水の瀧の看板設置や道路整備が必要
- 走り水の瀧を管理するため担い手の確保が必要
- 地区でウォーキング等のイベント開催や施設の点検・周辺道路の整備に取り組んでいる
- 新たなイベント・祭りを開催したい
- 観光ツアーを検討してはどうか
- 盆踊りを開催していたが、近年は実施できていない　等



▲走り水の瀧（国指定記念物「名勝」）

課題 3 地区の利便性向上による人口増加を目指す

八代市街へのアクセス性を活かすとともに、空き家の活用や働く場の確保など、若者世代が住みたくなるような環境を作る必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 若い人が戻れる、住んでくれるよう受け皿の整備が必要
- 移動販売車等、日常の購買活動を支援する取組の検討が必要
- 空き家を活用するなど、住む場所の確保が必要
- 使わない空き家は解体して欲しい
- 働く場所の確保が必要
- 利用しやすい公共交通を整備して欲しい　等



※乗合タクシーイメージ写真

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 防災力向上により安心して暮らせる地域創出プロジェクト

○被害のあった道路や河川、深水橋の復旧を早急に進めるとともに、今後の保します。また、避難所及び設備を整え防災力の向上を目指します。

【具体的な取組】

河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂の撤去等を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道等については住民との連携により取組を進めます。
避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・（指定緊急避難場所：深水生活改善センター） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：深水社会教育センター）

プロジェクト2 地区の観光資源活用・イベント開催プロジェクト

○走り水の瀧を観光振興の呼び水とするとともに、地区で実施する観光地

【具体的な取組】

祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。
地区の資源を活用した取組	・走り水の瀧などの地域資源を活用した賑わいの創出を図ります。 ・遊歩道の整備など地区の観光資源の維持管理を進めます。 ・ウォーキングコースを設定するなど、イベント企画・検討を進めます。
観光ルートの設定	・地区の観光資源や観光拠点へのルート・観光ツアーの設定・検討、アクセスしやすい環境づくりに努め、観光振興につなげていきます。

プロジェクト3 住みたくなる地区創出プロジェクト

○地区に若い世代を呼び込むため、空き家の活用や八代市街地へのアクセス

【具体的な取組】

空き家バンク制度の活用	・空き家バンク制度を活用した取組を促進します。また地区において、空き家を活用した取組を進めます。
生活利便施設への移動手段の確保	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。

災害に備え、迂回路となる林道整備やヘリポートの離発着等、安全な避難手段・経路を確

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 避難場所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成

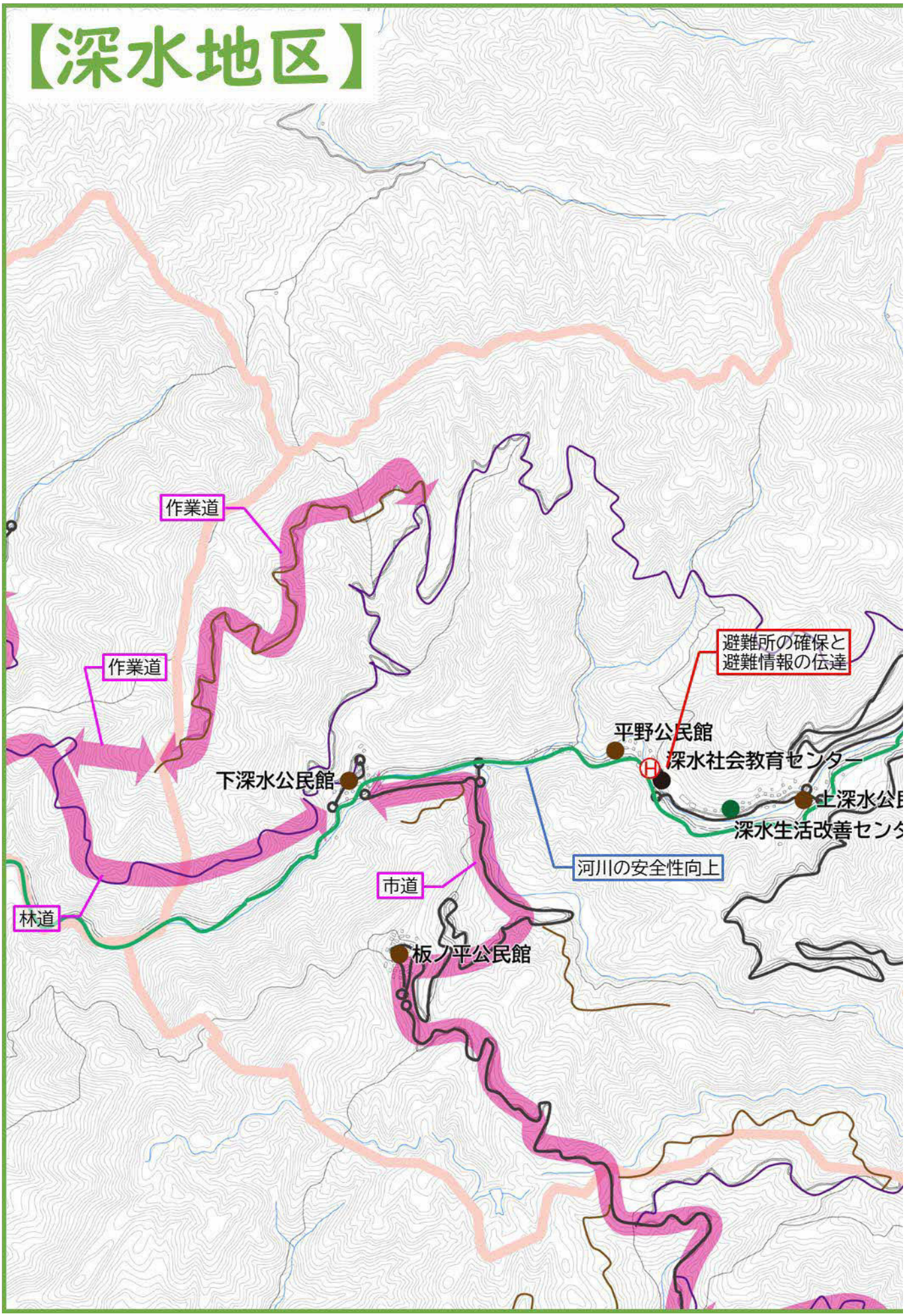
周辺の環境整備や地区主体のイベント開催でコミュニティの活性化を図ります。

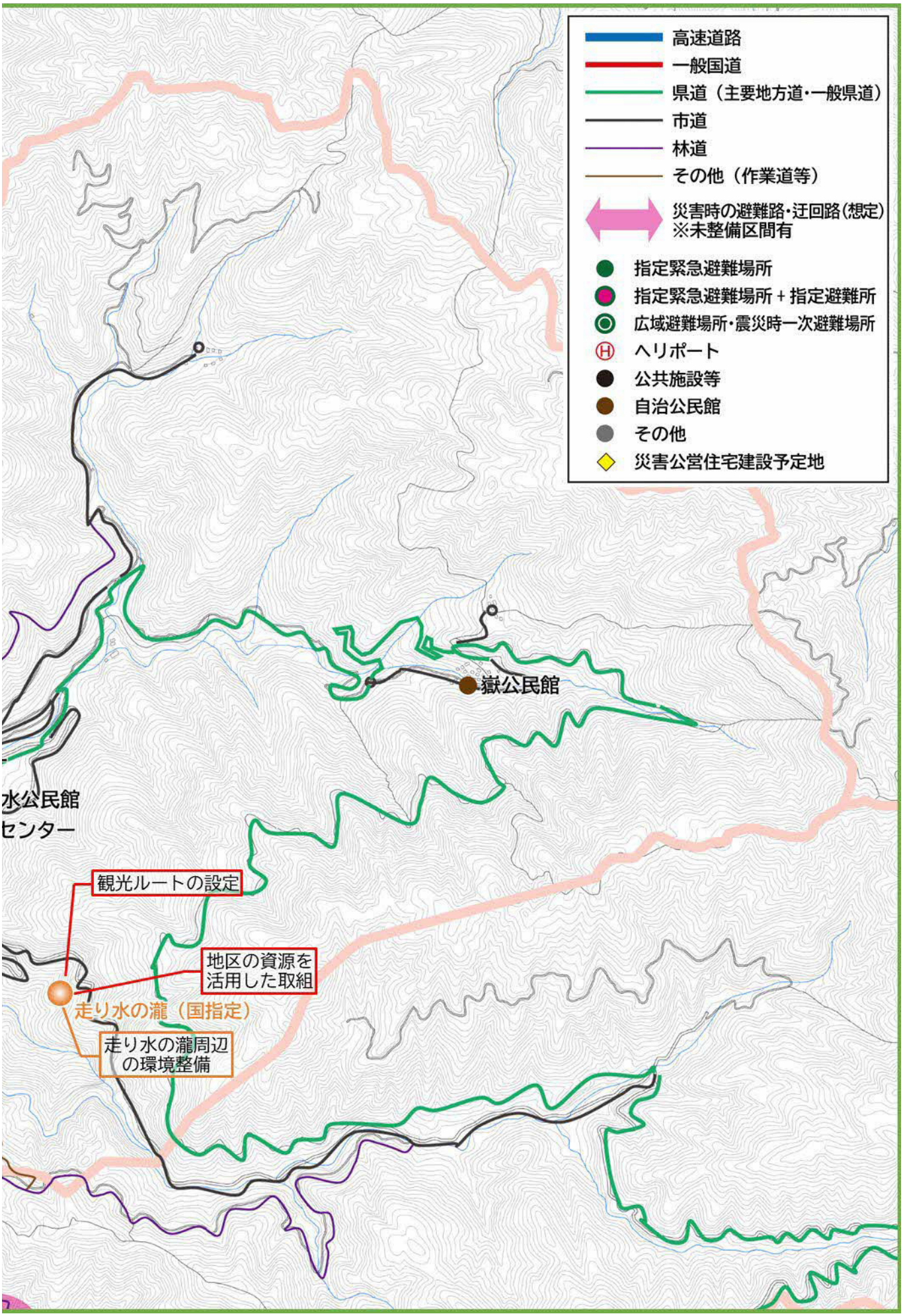
〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り情報の発信、取材等
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• イベント開催や観光客の受入に対する地元協力	• 走り水の瀧の周辺整備の検討 • バイクツーリズム情報サイト等への情報発信 • 維持管理に係るボランティアの募集 • 地域資源の活用・検討
令和3年度～令和8年度：募集・確認・実施	• 地区のおすすめ観光スポット・ルートの提案、おもてなし	• 地域の魅力等についての広報・ＰＲ

性を活かす公共交通を整備し、住環境の向上を推進します。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 地域空き家の情報提供、空き家の活用 • 空き家バンク制度への登録促進	• 空き家バンク制度の利用促進・空き家調査
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し

【深水地区】


作業道
作業道
避難所の確保と
避難情報の伝達
平野公民館
深水社会教育センター
下深水公民館
深水生活改善センタ
河川の安全性向上
市道
林道
板ノ平公民館


高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路（想定）
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地
嶽公民館
水公民館
センター
観光ルートの設定
地区の資源を
活用した取組
走り水の瀧（国指定）
走り水の瀧周辺
の環境整備

3．中谷地区復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

自然や歴史を継承し　安心安全・幸せを実感するまち　中谷

無形民俗文化財に指定されている七夕綱や地区の祭り、くま川ワイワイパーク等の地域資源を活用した地区の魅力を内外に広めることで、地区内の交流、来訪者の増加を促進し地区の活力を創出します。また、地区の住環境を整備するとともに、地区の伝統や資源、自然を活用した賑わいあるまちを目指します。



▲八代･芦北の七夕綱(国選択無形民俗文化財)



▲くま川ワイワイパーク

■被害の概要

中谷地区は球磨川の氾濫等により、32軒の住家被害（一部損壊以上）やその他家屋の被害が発生しました。

また、道路や鉄道路線、河川への土砂流入、護岸の損傷・崩壊等が発生していることに加え、道路への土砂流入により避難行動・復旧活動、人・物資の移動に影響を及ぼしています。

その他、山林において斜面の崩壊や流木、土石流による被害も発生しました。

▼住家被害状況(り災)

区分	坂本町全域	中谷地区
全壊	158	9
大規模半壊	66	6
中規模半壊	10	1
半壊	110	7
準半壊	1	0
一部損壊	94	9
合計	439	32

※令和3年9月末時点



▲小崎辻付近浸水状況



▲中谷橋付近流木等堆積状況

■復興に向けた課題

課題1 地区の暮らし、住まいの再建

地区での暮らしを取り戻すため、被害にあった道路の整備や住まいの再建を進めるとともに、公共交通の整備、空き家等を活用した受け皿の確保が必要です。

地区別懇談会などでの意見

- 災害公営住宅を早期建設して欲しい
- 再建に係る支援が欲しい
- 国道・県道の整備が必要
- 砂防ダムの整備が必要
- 流木の撤去が必要
- 道路の早期復旧、かさ上げが必要
- 銀行・郵便局・医療機関などの再建が必要
- 空き家の活用や地区に住んでもらえる仕組みづくりが必要
- 床上浸水に対する補助が少なく、再建が難しい
- 雇用機会を増やして欲しい
- 利便性の高い公共交通が欲しい
- くま川ワイワイパークから坂本PA付近までの道路が狭い
- 移動販売に来て欲しい
- 有害鳥獣対策が必要　等



※くま川ワイワイパーク復旧状況

課題2 観光資源や新たな取組による地区の活性化、賑わいづくり

七夕綱や七夕祭り、山の神祭り等の地区資源を活用した観光振興、くま川ワイワイパークを活用したイベント開催の検討など、地区の賑わいを創出する取組を推進する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 「七夕綱」を活用した観光の取組が必要
- 七夕祭りや山の神祭り等、地区の祭りの継承と祭りの復活が必要
- くま川ワイワイパークの復旧
- 地区の観光資源としてホタルの養殖やジビエ料理の提供等、活用方法の検討が必要
- 観光資源や観光拠点までのルートを整備することが必要　等



※なかたに文化祭

課題3 災害に負けない地区づくり

今回の豪雨災害を受け、今後同じような被害が発生しないよう防災対策を進め、災害時に住民の生命が守られる災害に強い地区づくりを進める必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 道路のかさ上げによる避難路の確保が必要
- 林道を迂回路・避難路として整備することが必要
- 避難所の再検討が必要
- 避難所の物資・設備を整備して欲しい
- 災害時に情報が不通とならないよう無線設備等通信設備の整備が必要
- 河川のカメラを整備して欲しい
- さかもと青少年センターを避難所にしてはどうか
- 被災箇所や被害状況等の記録作成が必要　等



※防災行政無線イメージ写真

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 住まい・生活環境の再生プロジェクト

○住まいの再建と地区での暮らしを取り戻すため、被害にあった道路や河川

【具体的な取組】

安全な住まいの再建	・輪中堤もしくは宅地かさ上げによる安全な居住地の確保を図ります。
河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道・林道等については住民との連携により取組を進めます。
空き家バンク制度の活用	・空き家バンク制度を活用した取組を促進します。また地区において、空き家を活用した取組を進めます。
生活利便施設への移動手段の確保	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。
有害鳥獣対策の取組	・農作物被害を軽減するために有害鳥獣対策を進めます。

プロジェクト2 地区の活性化・賑わい創出プロジェクト

○無形民俗文化財である七夕綱や七夕祭り、山の神祭り等の地区の観光資源、

【具体的な取組】

伝統の継承・保全	・地区で継承している歴史や文化などの伝統について、継承・保全に係る取組を進めます。
祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、出身者が地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。
地区の資源を活用した取組	・七夕綱や公園、球磨川の河川敷等を活用し、地区活力の向上・賑わいづくりを進めます。 ・鳥獣対策後の活用として、ジビエ料理の提供などの検討を進めます。
観光ルートの設定	・地区の観光資源や観光拠点となる区域へのルート設定、アクセスしやすい環境づくりに努め観光振興につなげていきます。

プロジェクト3 安全・安心な地区・防災力向上プロジェクト

○避難所の確保や災害時の情報発信を行います。

【具体的な取組】

避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・令和2年7月豪雨の被災箇所や状況を記録し、今後の災害対応や防災教育などに活かします。 ・（指定緊急避難場所：さかもと青少年センター分館） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：くま川ワイワイパーク）
情報伝達の手段及び周知体制の整備	・避難情報や被害情報等、災害時に情報伝達が途切れることなく発信できるよう防災無線や衛星電話等を整備します。
災害時のアクセス等の確保	・坂本ＰＡを活用したアクセスの確保を進めます。
危険箇所の点検・整備	・土砂災害等の発生が懸念される箇所を点検するとともに、安全性を高めるため治山・治水対策等を進めます。
地区と行政の連携	・地区住民に向けた各種情報の発信にあたっては、地区と行政が連携し迅速・確実な周知を図ります。

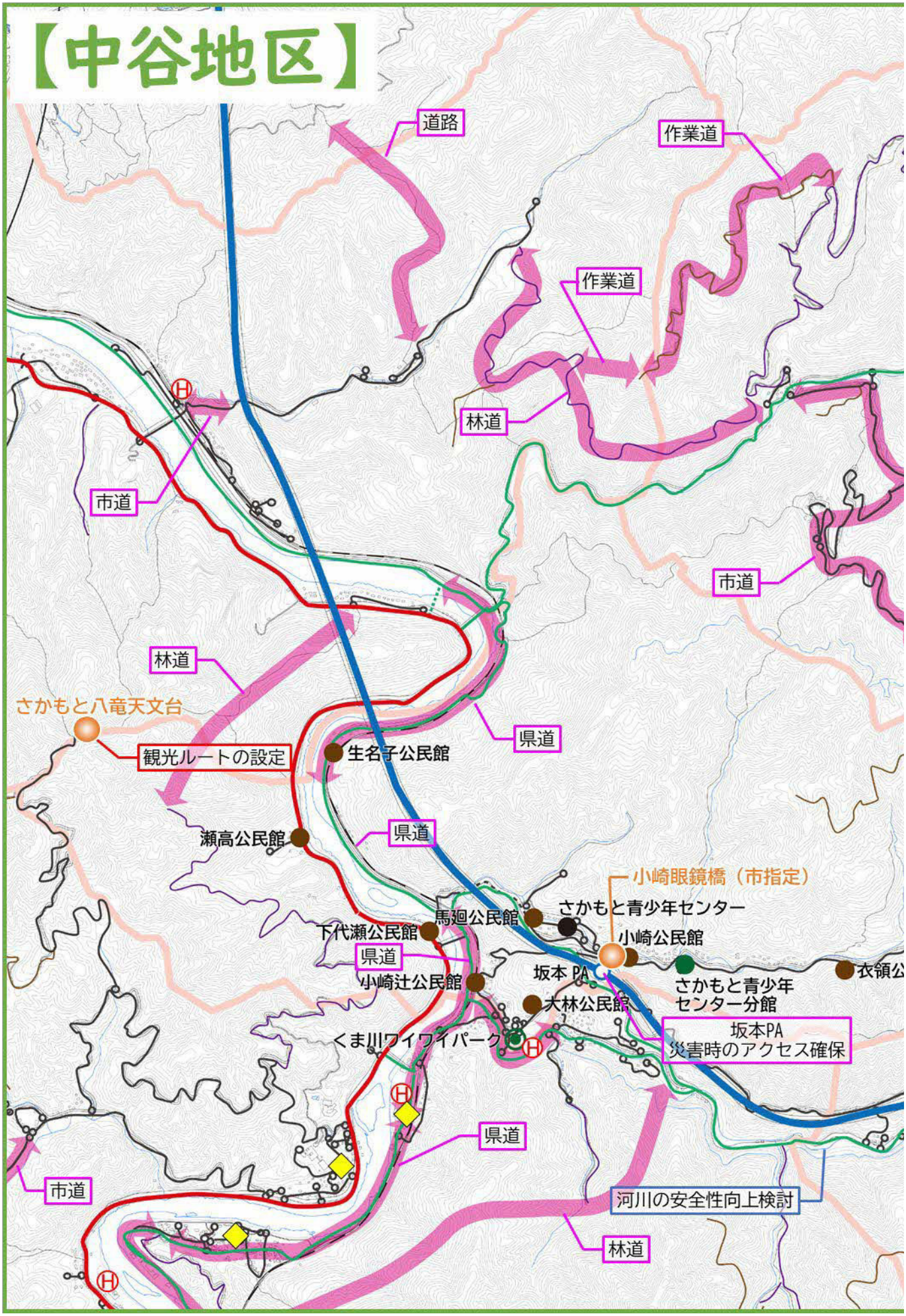
等の復旧を進めます。また、空き家を活用した住まいの確保を図ります。

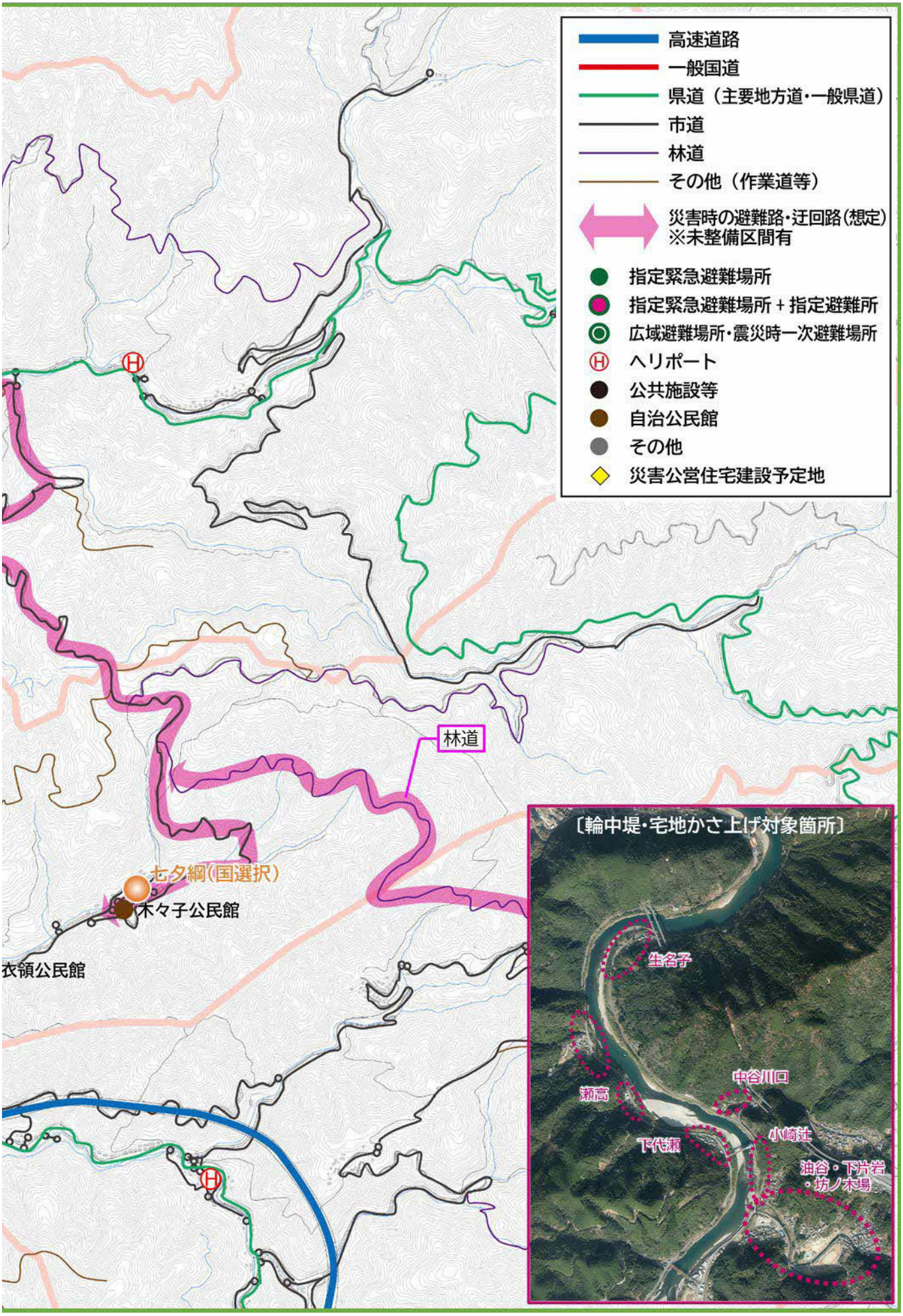
〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・実施	• 住まいの再建に関する地区ごとの再建意向確認・話し合いの開催	• 居住地・住環境の調整、整備
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 地域空き家の情報提供、空き家の活用 • 空き家バンク制度への登録促進	• 空き家バンク制度の利用促進・空き家調査
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ・利用促進	• 公共交通の適宜見直し
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 有害鳥獣に関する情報提供 • 狩猟免許の取得	• 狩猟免許取得へ向けた講習会参加助成 • 猟友会との連携

ワイワイパークを活用したイベントの開催等により地区に活気・賑わいを創出します。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 地域の伝統継承や寺社仏閣等の歴史文化資源の維持・管理	• 歴史文化資源の維持や管理に対する協力
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り等の地域情報の発信
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 七夕綱の作成体験・継承活動 • ワイワイパークを活用したイベントの開催 • ジビエ料理提供などの検討	• 七夕綱作成体験やイベント等の情報発信 • 食品加工・保存技術等に関する情報提供
令和3年度～令和8年度：募集・確認・実施	• 地区のおすすめ観光スポット・ルートの提案、おもてなし	• 地域の魅力等についての広報・ＰＲ

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 避難場所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成 • 令和2年7月豪雨の記録保存
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 情報の受信不備箇所の取りまとめ、情報提供 • 住民同士の緊急連絡先の確認	• 衛星電話の配備検討 • 通信連絡手段の確保周知
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• アクセス確保への協力	• 坂本ＰＡを活用した高速道路へのアクセス確保
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 地区の危険箇所の情報提供	• 定期的な危険箇所の点検、整備等
令和3年度～令和8年度：検討・実施	• 地区内での情報共有	• 地区への情報提供・情報発信


【中谷地区】
道路
作業道
作業道
林道
市道
市道
林道
さかもと八竜天文台
観光ルートの設定
生名子公民館
県道
瀬高公民館
県道
小崎眼鏡橋（市指定）
馬廻公民館
さかもと青少年センター
下代瀬公民館
小崎公民館
県道
坂本 PA
小崎辻公民館
さかもと青少年
センター分館
大林公民館
坂本PA
災害時のアクセス確保
くま川ワイワイパーク
県道
市道
河川の安全性向上検討
林道


高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路（想定）
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地
林道
七夕綱（国選択）
木々子公民館
衣領公民館
〔輪中堤・宅地かさ上げ対象箇所〕
生名子
中谷川口
瀬高
小崎辻
下代瀬
油谷・下片岩
・坊ノ木場

4．鮎帰地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

住民が安心して暮らせる里　鮎帰

地区の資源である日光の棚田や祭りを活かした賑わいづくりを進めます。また、鮎帰では大きな被害はなかったものの、様々な取組を進めることで、今後も住民が安心して暮らせる里（まち）を目指します。



▲日光の棚田（日本の棚田百選）



▲鮎帰地区雨乞い踊り（市指定無形民俗文化財）

■被害の概要

鮎帰地区は、7軒の住家被害（一部損壊以上）が発生し、その他にも道路や河川への土砂・落石の流入、護岸の崩壊等の被害が発生しました。

また、道路への土砂流入により、避難時の通行に支障が生じていたことに加え、迂回路についても崩壊している箇所がみられ、道路の危険箇所が多数発生しました。

▼住家被害状況（り災）

区分	坂本町全域	鮎帰地区
全壊	158	1
大規模半壊	66	1
中規模半壊	10	0
半壊	110	0
準半壊	1	0
一部損壊	94	5
合計	439	7

※令和3年9月末時点



▲稲入ポンプ格納庫前道路被害状況



▲洗掘による道路陥没状況

■復興に向けた課題

課題1 地区の財産・生命を守るための防災対策の推進

被害のあった道路や河川の早期復旧を進めるとともに、発災時の被害を低減するための取組や避難所・避難路の整備等による地区の安全性向上が課題となっています。

地区別懇談会などでの意見

- 道路の早期修復、改良、かさ上げが必要
- 河川の護岸整備や川床に堆積した土砂等の撤去が必要
- ダム周辺の側溝等の土砂の撤去が必要
- 安全に避難できる避難路の整備が必要
- 緊急時に利用する林道等の迂回路の整備が必要
- 避難所の設備等の整備が必要
- 社会教育センターを避難所として活用する等、避難所の再検討が必要
- 避難情報の確実な伝達を可能とするため、通信設備の整備が必要
- 孤立時に安否確認するための体制・設備が必要
- 砂防ダムの流木を撤去して欲しい
- 公共交通の充実(周知)　等



※市道稲入石坂線法面災害復旧

課題2 イベントや地区の魅力を活かした交流促進

地区内外の交流を促すイベントの開催や地区の魅力である「日光の棚田」等の維持・活用を進め、観光・交流を創出する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 地区の特産品づくりが必要
- 盆踊りやふるさとまつり等、地区のイベントを再開したい
- 日光の棚田の取組を地区全体のものとし、地区を元気づけたい
- 観光につながる取組を進めていきたい
- 日光の棚田を維持していくため、後継者の育成が必要
- 薬師堂の銀もくせいを再生したい
- ヤマメ釣り大会を復活したい　等



※かずら豆腐

課題3 雇用の創出等による地区の賑わい再生

地区の賑わいを取り戻すため、働く場の創出や高齢者雇用に対する取組を行う必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- まだまだ働ける高齢者が多いが、雇用の場が少ない
- 地区での雇用創出が必要
- ライフラインの復旧後は、地区で活性化に向けた取組を図ることが必要　等



※イベントイメージ写真

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 地区の安全性向上プロジェクト

○一日も早く元の生活に戻れるよう早急に道路や河川の復旧を行うとともに、

【具体的な取組】

河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、県道について要望を行うとともに、市道・林道等については住民との連携により取組を進めます。
避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。また、孤立した際、迅速な安否確認を図ります。 ・避難生活の負担を低減するため、避難所のトイレ整備、衛生的な環境の構築を図ります。 ・（指定緊急避難場所：鮎帰社会教育センター） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：鮎帰社会教育センター）
生活利便施設への移動手段の確保	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。

プロジェクト2 地域の資源・イベントを活かした観光振興プロジェクト

○日光の棚田や地区の祭り・イベント等、地区の魅力を活用した地域の振興を

【具体的な取組】

地区の資源を活用した取組	・棚田や祭り、ほたる等、地区の資源を活用し、賑わいづくりを進めるとともに、地区において各種団体と連携し、新たな特産品の開発を進めます。また、薬師堂の銀もくせい等、地域資源の再生を図ります。
祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、情報発信を行いながら地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。

プロジェクト3 賑わいを生む雇用創出プロジェクト

○高齢者が元気に働ける場をつくるため、地区の資源を活用した雇用の創出を

【具体的な取組】

高齢者雇用の促進	・高齢者の働く場を確保するため、あらゆる機会を通じて情報収集するなど、高齢者の雇用につなげます。
地区の資源を活用した雇用の創出	・地区において、森林資源等を活用した事業を構築し、雇用の創出を図ります。

避難所・避難路の整備等、防災対策を推進します。

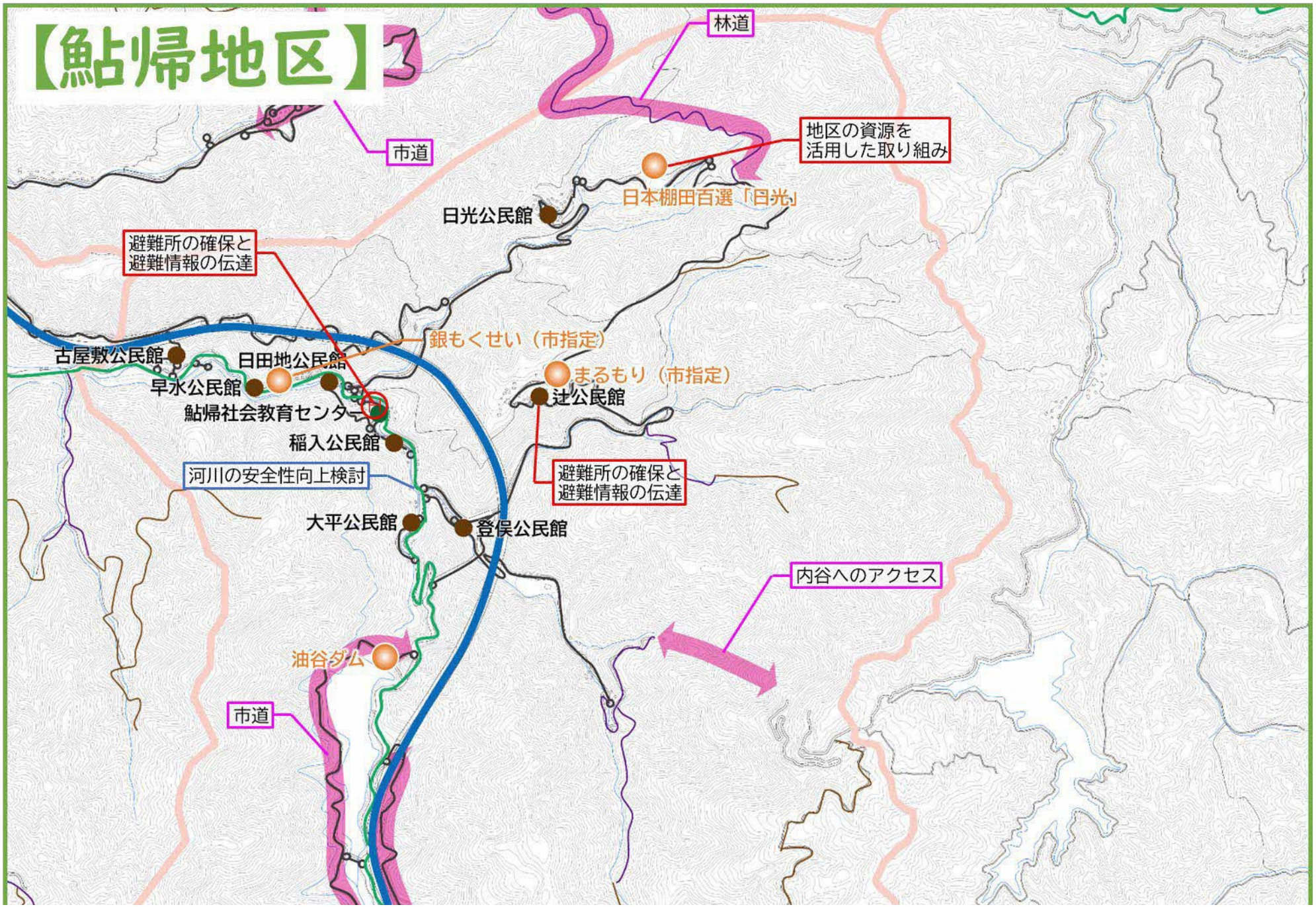
〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 安否確認体制の構築 • 避難場所や避難路の確保 • 避難場所の設備整備 • 自主防災組織の育成
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し

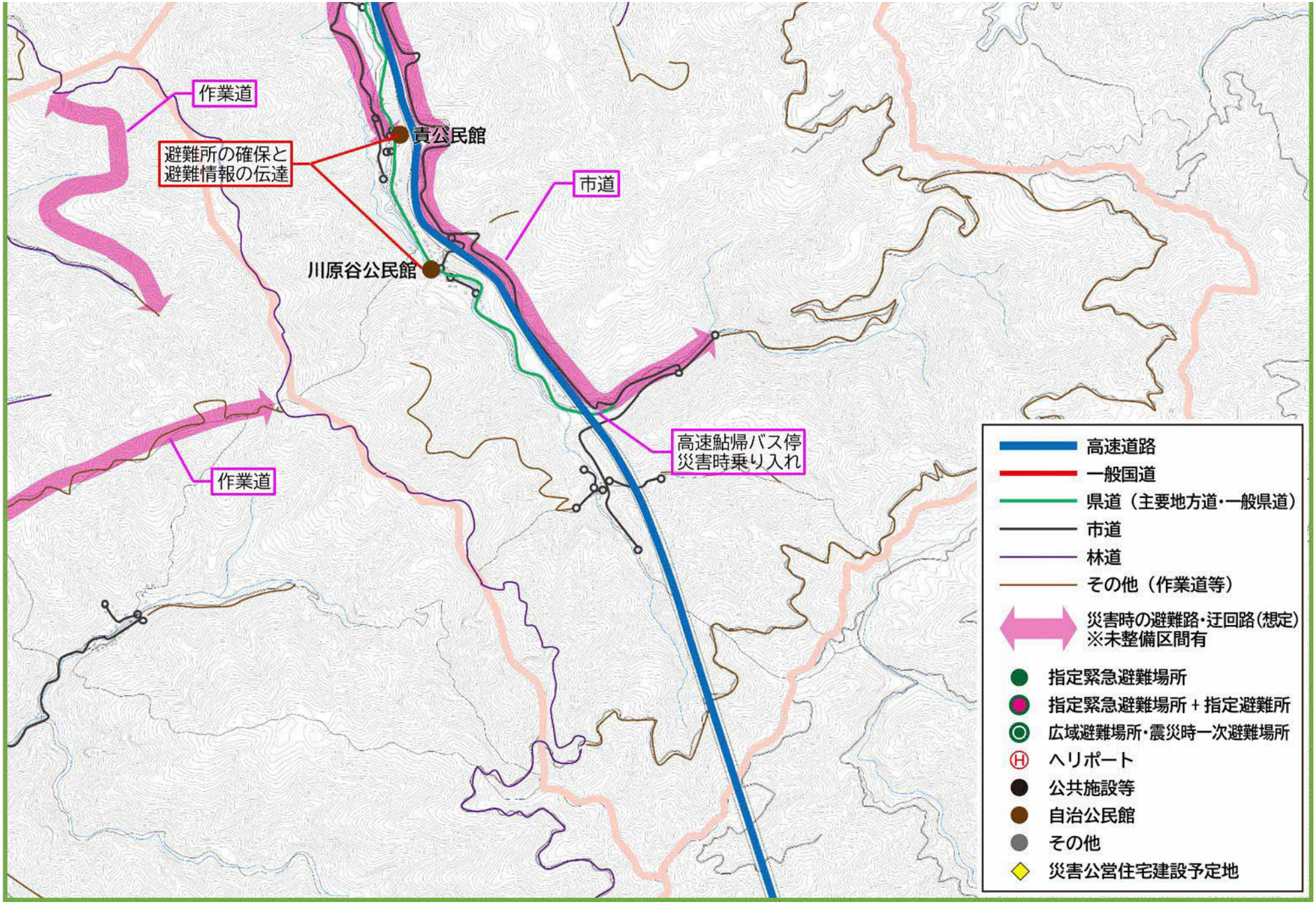
進めるとともに、これら地域の資源を今後も残していくための取組を推進します。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 棚田の保全・管理 • かずら豆腐など地域特産品の販路開拓 • 地域資源の再生	• 販路開拓の支援 • 食品加工・保存技術等に関する情報提供 • 地域資源の活用・検討
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り等の地域情報の発信

創出を促進します。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 地区内における雇用機会の情報共有 • 新たな雇用創出に係る提案・協力等	• シルバー人材センターの活用、情報提供 • 雇用に係る情報公開や周知の支援
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 椎茸の原木管理・生産 • 生産品の市場販売	• 管理・生産に係る補助体制の検討 • 販路開拓の支援


【鮎帰地区】
林道
市道
地区の資源を
活用した取り組み
日本棚田百選「日光」
日光公民館
避難所の確保と
避難情報の伝達
銀もくせい（市指定）
古屋敷公民館
日田地公民館
まるもり（市指定）
早水公民館
辻公民館
鮎帰社会教育センター
稲入公民館
河川の安全性向上検討
避難所の確保と
避難情報の伝達
大平公民館
登俣公民館
内谷へのアクセス
油谷ダム
市道


作業道
避難所の確保と
避難情報の伝達
責公民館
市道
川原谷公民館
高速鮎帰バス停
災害時乗り入れ
作業道
高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路(想定)
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地

5．藤本地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

笑顔で暮らせる生きがいとふれあうまち　藤本

坂本町の中心地として、みんなが安心して暮らせるよう道路や河川等の復旧を進めるとともに、各種生活サービスの集約を図り利便性の高い地区の形成を目指します。

また、災害公営住宅の整備や空き家等を活用した居住地の確保に加え、地域の祭りの維持や新たなイベントの開催により活気あるまちを目指します。



▲藤本五所神社の森（市指定天然記念物）



▲復興坂本町桜まつりin藤本

■被害の概要

藤本地区は、住家被害170軒と坂本町において最も多くの被害を被りました。

この他にも、坂本橋の流失、県道や河川への土砂の流入・堆積が発生しており、避難時や被災後の通行や復旧に影響を及ぼしました。

また、坂本町の中心地であり、坂本支所をはじめ、様々な生活サービス施設が立地していましたが、球磨川の氾濫による被害を受け、坂本町での暮らしに大きな影響が生じています。

▼住家被害状況（り災）

区分	坂本町全域	藤本地区
全壊	158	90
大規模半壊	66	33
中規模半壊	10	5
半壊	110	26
準半壊	1	0
一部損壊	94	16
合計	439	170

※令和3年9月末時点



▲坂本地区の浸水状況



▲道の駅下流付近浸水状況

■復興に向けた課題

課題1 安心して暮らせる基盤づくり

誰もが安心して暮らせる環境とするため、道路や宅地等のかさ上げの他、道路や河川、鉄道の早期復旧、避難活動に係る多様な取組を推進する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 道路や住宅地をかさ上げし、安心して暮らせるよう整備して欲しい
- 鉄道路線から山側に道路が必要
- 道路や河川、砂防ダムに堆積した土砂の早期撤去が必要
- 道路を拡幅して欲しい
- 避難路に街灯を設置するなどの整備が必要
- ヘリポートを建設して欲しい
- 高台等に避難場所を整備して欲しい
- 避難所の再検討が必要
- 避難ルートの確保が必要
- どこでどのような被害があったのか把握が必要
- 災害時における情報発信が必要(道路状況等)
- 河川整備に加え、山間部の整備が必要
- 林業の再生が必要　等



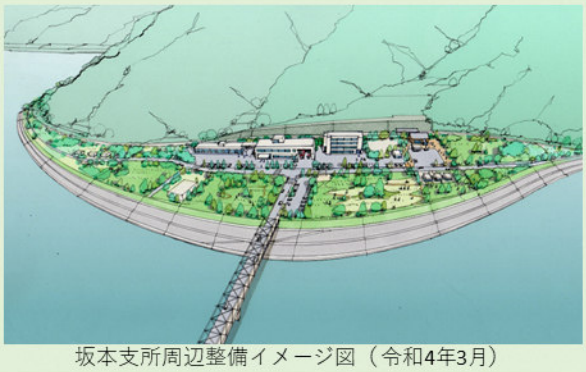
※県道中津道八代線復旧状況

課題2 坂本の中心地としての機能回復

坂本町の中心地として、支所等の公共施設や日常生活に必要な施設等の整備・誘致を推進し、機能の回復・向上を進める必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 支所の再建箇所やかさ上げの検討、早期決定が必要
- JR肥薩線を再開して欲しい
- 病院や銀行等を再開して欲しい
- 新しい坂本支所は、複合的な機能を持たせた施設にして欲しい
- 交通利便性を良くして欲しい
- 地区全体のかさ上げが必要
- 病院、薬局、歯科医院が欲しい
- 公園の早期復旧　等



坂本支所周辺整備イメージ図（令和4年3月）

課題3 戻りたくなる活気ある地区づくり

住宅の再建や空き家等を活用した新たな居住の確保を進め、地区に戻り生活できる環境整備を推進するとともに、地区を活気づけるイベント等の開催を促進する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 元の場所に住まいを再建したい
- 災害公営住宅を早期に建設して欲しい
- 空き家を活用するなど、住む場所を確保して欲しい
- 空き地の活用について検討が必要
- 商店を誘致して欲しい
- 子育て世代を誘致する仕組みが必要
- 地域の祭り等のイベントで集まる機会が必要
- 神社等の地区資源を守っていく必要がある
- 有害鳥獣対策が必要
- 山村留学など坂本町の自然を活かした学校づくり
- くま川ワイワイパークの駐車場増設
- 道の駅「坂本」(さかもと館)の早期復旧が必要　等



※災害公営住宅イメージ写真

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 地区の安全性を高める防災力向上プロジェクト

○坂本橋や河川護岸の早期復旧を推進するとともに、輪中堤や宅地・道路の

【具体的な取組】

安全な住まいの再建	・輪中堤もしくは宅地かさ上げによる安全な居住地の確保を図ります。
河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道等については住民との連携により取組を進めます。
避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・（指定緊急避難場所：八竜小学校） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：グリーンパークさかもと）
危険箇所の点検・整備	・土砂災害等の発生が懸念される箇所を点検するとともに、安全性を高めるため治山・治水対策等を進めます。

プロジェクト2 坂本町の拠点機能回復プロジェクト

○坂本町の中心として、坂本支所や拠点機能の回復を推進します。加えて、

【具体的な取組】

坂本支所等の再建	・坂本町の行政機能を担う坂本支所等の早期再建を進めるとともに、住民等との連携により利用しやすい施設を整備します。また、生活利便施設の再開に向け、関係機関と協議を進めます。
生活利便施設への移動手段の確保	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。

プロジェクト3 住みやすい環境・活気創出プロジェクト

○災害公営住宅の検討や空き家等を活用した新たな住まいの確保等の受け皿

【具体的な取組】

災害公営住宅の整備	・令和2年7月豪雨で住宅を失った被災者の生活再建に向けて災害公営住宅の整備を進めます。
空き家バンク制度の活用	・空き家バンク制度を活用した取組を促進します。また地区において、空き家を活用した取組を進めます。
観光資源の活用	・地区の観光資源や観光拠点となる区域へのルート設定、アクセスしやすい環境づくりに努め、観光振興につなげていきます。 ・広域的な交流施設である道の駅「坂本」（さかもと館）の早期復旧を進めます。 ・かわまちづくりの推進により球磨川の魅力を活かした観光振興を図ります。
地区の資源を活用した取組	・大門観音堂の鰐口や文化財等、地区の資源を活用し、賑わいづくりを進めます。
林業に対する支援や有害鳥獣対策の取組	・林業を再生するために、専門家・技術者の派遣や補助金制度の検討等、各種支援を図ります。 ・農作物被害を軽減するために有害鳥獣対策を進めます。

かさ上げ、避難所・避難路の整備等、防災力の向上に取り組みます。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・実施	• 住まいの再建に関する地区ごとの再建意向確認・話し合いの開催	• 居住地・住環境の調整、整備
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 避難場所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成
令和3年度～令和8年度：募集・確認	• 地区の危険箇所の情報提供	• 定期的な危険箇所の点検、整備等

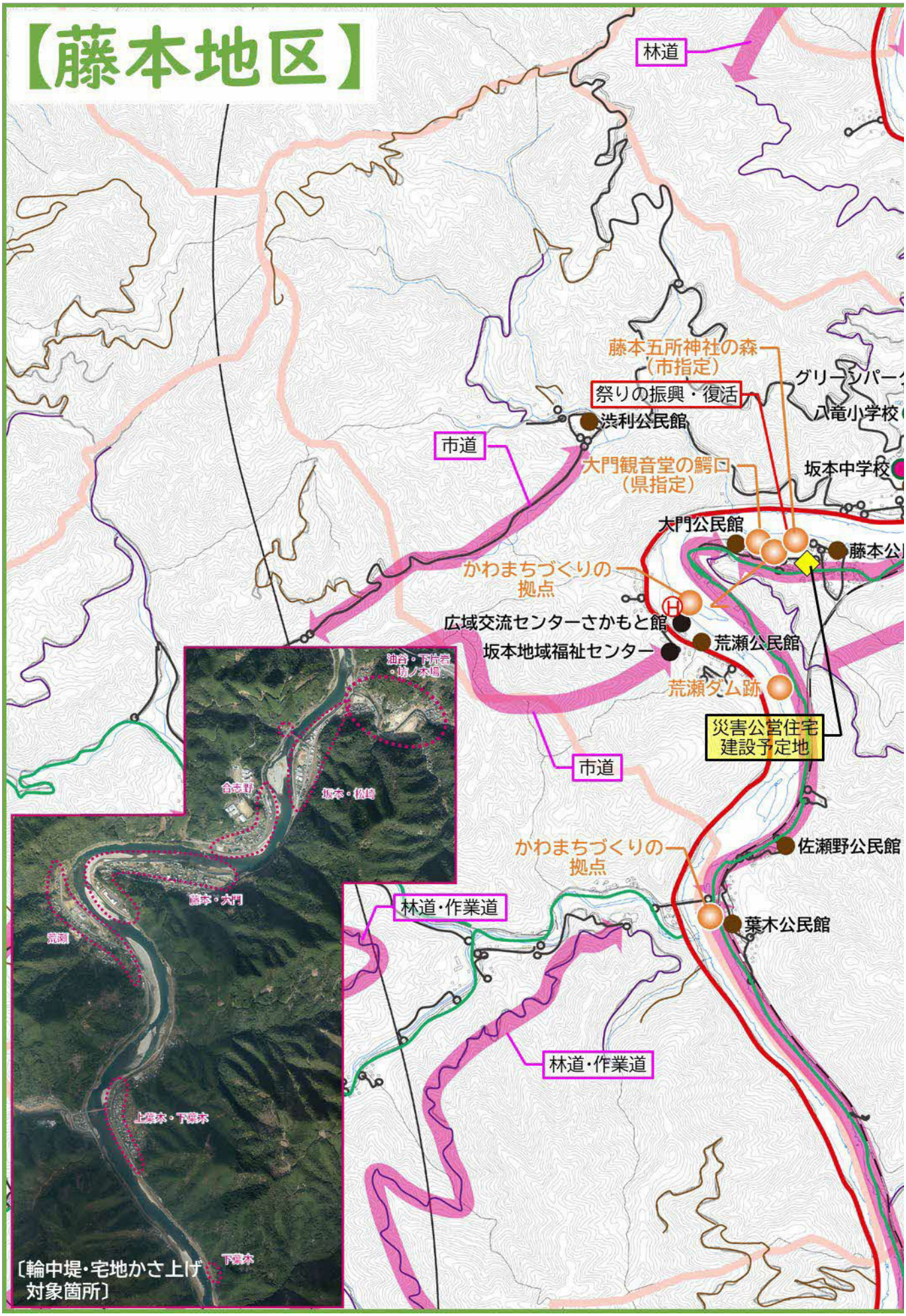
利便性の向上を図るため、支所周辺の機能集約や公共交通の再検討等に取り組みます。

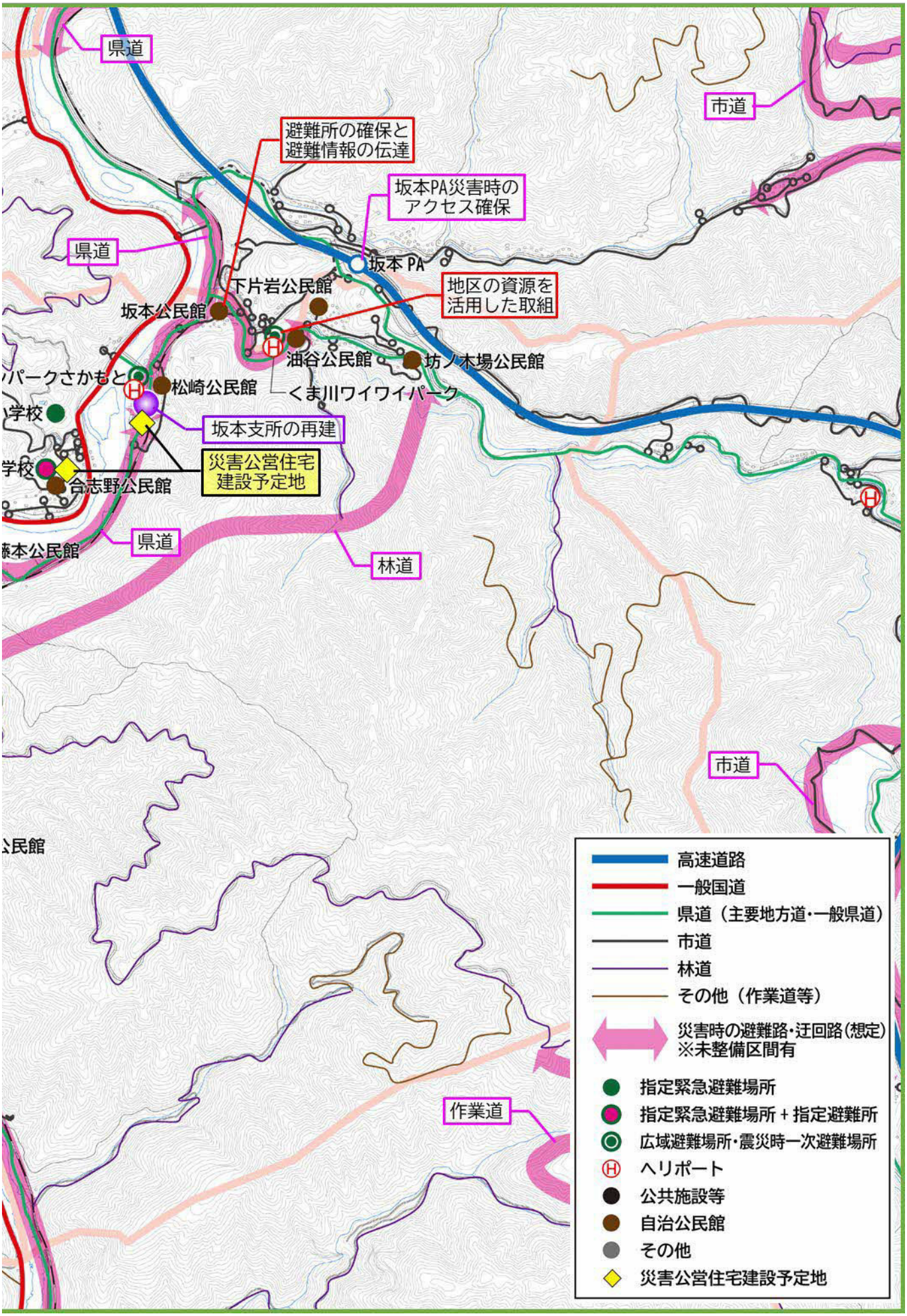
〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・工事等	• 坂本支所周辺再建に対する協力	• 坂本支所周辺の調整、整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し

を用意するとともに、賑わいを創出するイベント等の開催等を推進します。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・工事等	• 災害公営住宅入居者と地域の交流	• 災害公営住宅の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 地域空き家の情報提供、空き家の活用 • 空き家バンク制度への登録促進	• 空き家バンク制度の利用促進・空き家調査
令和3年度～令和8年度：募集・確認・実施	• 地区のおすすめ観光スポット・ルートの提案、おもてなし • 道の駅周辺の復旧に対する協力 • かわまちづくりへの協力	• 地域の魅力等についての広報・PR • 観光拠点や周辺の整備 • かわまちづくりの推進
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 歴史的文化財等観光資源の維持・管理	• 観光資源の情報発信 • 藤本五所神社や大門観音堂の鰐口等の周辺整備
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 新規就林者に対する地域でのサポート • 有害鳥獣に関する情報提供 • 狩猟免許の取得	• 森林の保全・育成 • 緑の雇用制度の利用促進 • 狩猟免許取得へ向けた講習会参加助成 • 猟友会との連携

【藤本地区】


林道
藤本五所神社の森
（市指定）
祭りの振興・復活
渋利公民館
八竜小学校
市道
大門観音堂の鰐口
（県指定）
坂本中学校
大門公民館
藤本公
かわまちづくりの
拠点
広域交流センターさかもと館
坂本地域福祉センター
荒瀬公民館
荒瀬ダム跡
災害公営住宅
建設予定地
市道
かわまちづくりの
拠点
佐瀬野公民館
林道・作業道
葉木公民館
林道・作業道
油台・下片岩
・坊ノ木場
合志野
坂本・松崎
藤本・大門
荒瀬
上葉木・下葉木
下葉木
〔輪中堤・宅地かさ上げ
対象箇所〕


県道
避難所の確保と
避難情報の伝達
坂本PA災害時の
アクセス確保
市道
県道
坂本 PA
下片岩公民館
地区の資源を
活用した取組
坂本公民館
油谷公民館
坊ノ木場公民館
パークさかもと
松崎公民館
くま川ワイワイパーク
学校
坂本支所の再建
災害公営住宅
建設予定地
学校
合志野公民館
県道
林道
市道
作業道
高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路(想定)
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地

6．中津道地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

いつでも帰れる元気になれる心のふるさと　中津道

河川や道路の整備、公共交通の利便性強化に加え、地区の防災力を高めることで安心して快適に暮らせるまちの形成を目指します。また、地区の誇りである中津道阿蘇神社や神木といった地区資源・文化財の維持、保全を進めるとともに、地区に根差した祭り等を継承していくことで、住民が元気に暮らし続け、戻りたくなる故郷を目指します。



▲中津道阿蘇宮の森(市指定天然記念物)



▲中津道盆踊り

■被害の概要

中津道地区では、43軒の全壊を含め、住家被害は56軒と非常に多くの被害が発生しました。

その他にも、球磨川に架かる鎌瀬橋の流失や道路や河川への土砂の流入・堆積等の被害が多数発生し、住民の移動にも大きな影響を及ぼしました。

また、山林において斜面の崩壊や流木、土石流による被害も発生しました。

▼住家被害状況(り災)

区分	坂本町全域	中津道地区
全壊	158	43
大規模半壊	66	7
中規模半壊	10	0
半壊	110	3
準半壊	1	0
一部損壊	94	3
合計	439	56

※令和3年9月末時点



▲瀬戸石駅付近被害状況



▲三坂公民館被害状況

■復興に向けた課題

課題1 地区に戻り生活できる環境づくり

道路や河川、流失した鎌瀬橋等の早期復旧を図るとともに、地区を離れた住民が戻れるよう住まいの再建支援や空き家などを活用した住まいの確保を推進する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 空き家を購入し住みたいと考えている、空き家を有効活用できるようにして欲しい
- 再建を考えているが場所がない
- JR肥薩線を復旧して欲しい
- バス等の公共交通手段の整備が必要
- 道路や河川の土砂の撤去が必要
- 道路の早期復旧が必要
- 鎌瀬橋の仮橋整備、復旧を優先的に進めて欲しい
- 元の場所に戻れるよう宅地や道路のかさ上げ等が必要
- 流木の撤去が必要
- 砂防ダムの整備を検討して欲しい
- 有害鳥獣対策が必要
- 病院が必要
- 浸水する道路の整備（事前把握を含む）　等



※球磨川堆積土砂掘削状況

課題2 防災機能を高め安心して暮らせる地区づくり

避難所の再検討や避難路の整備を進め、災害発生時にも避難しやすい環境を整備します。また、ヘリポートや通信機器の設備拡充を進め、防災力の高い安心な地区づくりを推進する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 集落に避難所が必要
- 避難路に危険箇所が多い、避難路の整備が必要
- かさ上げ等、避難所の整備が必要
- 避難所に物資の保管が必要
- 避難指示、避難情報が正確に伝わるよう設備を整えて欲しい
- ヘリポートが欲しい
- 避難所の再検討が必要　等



※ヘリポートイメージ写真

課題3 地区資源の保全と活用、賑わいの創出

地区が有する貴重な資源を保全していくとともに、地区に賑わいを取り戻すため、地区資源の活用や新たなイベントの創出等の観光振興を促進する必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 中津道阿蘇神社の復興を支援して欲しい
- 盆踊り等の行事を増やしたい
- 文化財となっており神木を保全していくため、神社・建物の復旧を支援して欲しい
- 祭りをできる限り継承していくことが必要
- 被災した地区資源の修繕を支援して欲しい
- 文化財の魅力をアピールすることが必要
- ラフティング等、自然の観光活用が必要
- 空いている畑を活用しレンタル農地等の取組はどうか
- お寺周辺の公園化や保育園跡地へのバンガロー設置　等



※高齢者交流会

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 居住の受け皿創出・地区の再生プロジェクト

○坂本町の交通軸を担う鎌瀬橋の早期復旧を進めるとともに、被災した道路まいの再建及び空き家等の活用を推進します。

【具体的な取組】

安全な住まいの再建	・輪中堤もしくは宅地かさ上げによる安全な居住地の確保を図ります。
河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道等については住民との連携により取組を進めます。
生活利便施設への連絡	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。
災害公営住宅の整備	・令和2年7月豪雨で住宅を失った被災者の生活再建に向けて災害公営住宅の整備を進めます。
空き家バンク制度の活用	・空き家バンク制度を活用した取組を促進します。また地区において、空き家を活用した取組を進めます。

プロジェクト2 自然災害への対応・防災機能の向上プロジェクト

○自然災害等に備えるため、避難所や避難路、ヘリポートの確保等により、

【具体的な取組】

避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・（指定緊急避難場所：上鎌瀬公民館） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：中津道社会教育センター）
情報伝達の手段及び周知体制の整備	・避難情報や被害情報等、災害時に情報伝達が途切れることなく発信できるよう防災無線や衛星電話等を整備します。

プロジェクト3 貴重な地区資源の保全・活用による賑わい創出プロジェクト

○盆踊りや山の神祭り等の復活や、中津道阿蘇神社等の地区が有する資源を保

【具体的な取組】

祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。
地区の資源を活用した取組	・中津道阿蘇神社や文化財となっている神木等、地区の資源を活用し、賑わいづくりを進めます。 ・お寺周辺の公園化や保育園跡地へのバンガロー設置など、既存の資源を活用した新たな賑わいづくりを進めます。

や河川等の基盤の再生を推進します。また、地区に戻り住まう受け皿を確保するため、住

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・実施	• 住まいの再建に関する地区ごとの再建意向確認・話し合いの開催	• 居住地・住環境の調整、整備
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し
令和3年度～令和5年度：調査・設計・工事等	• 災害公営住宅入居者と地域の交流	• 災害公営住宅の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 地域空き家の情報提供、空き家の活用 • 空き家バンク制度への登録促進	• 空き家バンク制度の利用促進・空き家調査

地区の防災機能の向上を進めます。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動 • 家族間の連絡・安否確認	• 避難情報の伝達 • 避難所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成 • 安否確認体制の構築
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 情報の受信不備について地区で取りまとめ • 住民同士の緊急連絡先の確認	• 衛星電話の配備検討 • 通信連絡手段の周知

全していくとともに、新たな行事・イベント開催等により賑わい創出を推進します。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り等の地域情報の発信
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 中津道阿蘇神社や神木の維持・管理 • 地域資源の保全に対する協力 • 公園化やバンガロー設置などの検討	• 地域資源の保全・活用 • 地域の魅力等についての広報・ＰＲ

【中津道地区】

林道・作業道

林道・作業道

市道

下鎌瀬公民館

上鎌瀬公民

中津道阿蘇宮の森（市指定）

西鎌瀬公民館

三坂公

地区の資源を活用した取組

祭りの振興・復活

中津道公民館

中津道社会教育セン

避難所の確保と避難情報の伝達

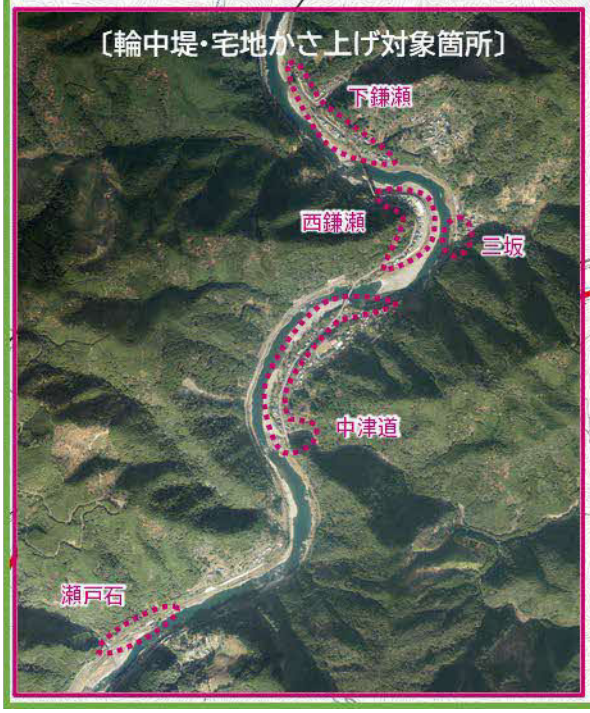
林道・作業道

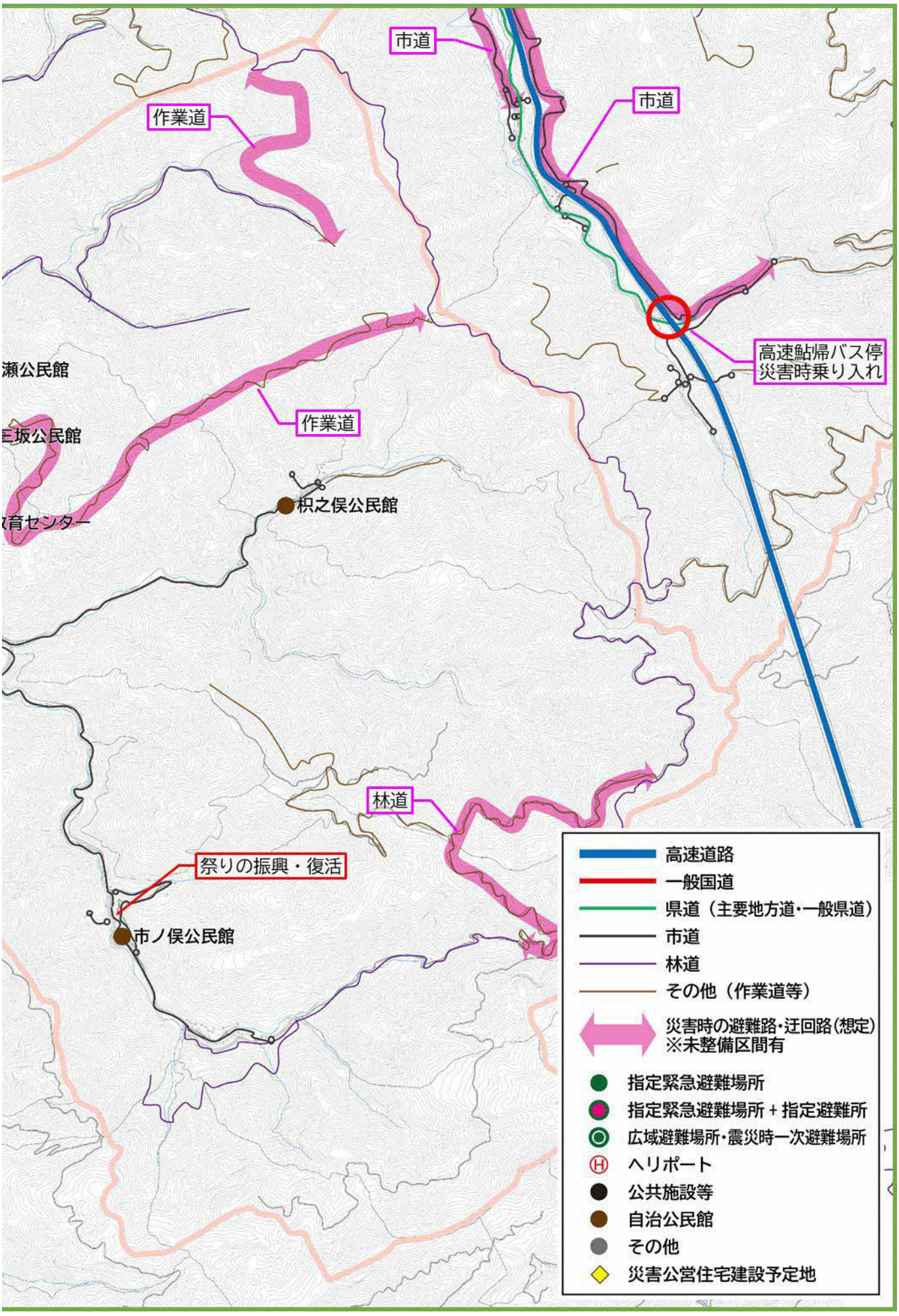
瀬戸石公民館

林道・作業道

災害公営住宅建設予定地

〔輪中堤・宅地かさ上げ対象箇所〕




市道
市道
作業道
高速鮎帰バス停
災害時乗り入れ
瀬公民館
三坂公民館
作業道
育センター
枳之俣公民館
林道
祭りの振興・復活
市ノ俣公民館
高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路（想定）
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地

7．田上地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

豊かな暮らし･資源を活かし 定住と交流が重なりあうまち 田上

ほたるまつりやお大師さん祭り、さかもと温泉センター等の地域資源を活用するとともに、農業を活かした交流促進を図ることで、若者の定住や、地区外からの新たな居住者・来訪者の増加を促し、定住と交流が重なり合うまちを目指します。



▲さかもと温泉センター



▲ほたるまつり

■被害の概要

田上地区は、球磨川沿岸の地域においては、氾濫等により甚大な被害を被り、全壊・大規模半壊が発生し、地区全体としては38軒の住家被害（一部損壊以上）が発生しました。

多くの農地へ土砂が流入・堆積し、農道にも大きな被害が発生しており、基幹産業である農業に大きな影響が生じました。

また、地区内の各所で道路の損傷等の被害が発生しているほか、河川への土砂堆積による川床の上昇、倒木の河川への流入等も見られ、地域によっては、浸水被害が発生しました。

▼住家被害状況(り災)

区分	坂本町全域	田上地区
全壊	158	1
大規模半壊	66	2
中規模半壊	10	0
半壊	110	18
準半壊	1	0
一部損壊	94	17
合計	439	38

※令和3年9月末時点



▲女原付近県道被害状況



▲寺前瀬被害状況

■復興に向けた課題

課題 1 誰もが暮らしやすい住環境づくり

田上に定住したくなるような住環境の創出と、子どもから高齢者まで、安全・安心に生活することができる環境づくりが課題となっています。

地区別懇談会などでの意見

- 土砂堆積や大きな落石が見られる。二次災害の危険もあるため早急に除去して欲しい
- 県道が狭くて運転しづらいため、拡幅が必要
- 人口の流出を抑制するためには、商業･医療施設の再建や、安全･安心な環境づくりが重要
- 高齢化が進み運転できなくなった時のことが心配、地区内での施設整備が必要
- 荒廃した山林の整備・規制が必要
- 高齢者が多く自力避難が難しいため、避難時のサポートや避難路の整備が必要
- 保育園を自主避難所にして欲しい
- 災害時には迅速な情報伝達、被害状況の共有が可能な設備が必要
- きめ細かい公共交通サービスが欲しい　等



※県道芦北坂本線復旧状況

課題 2 地区の資源を活用した観光振興・賑わいづくり

地区に根付く祭りや温泉等、観光資源やイベントを通じた地区内外の交流を促進し、地区の賑わいづくりを進める必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 田上は祭りが多いことが特徴であり、復興のシンボルとして祭りの復活が必要
- 「正月ツアー」等、地域資源を活用した観光振興・地区が賑わうイベントが必要
- 山林を活用した癒し、遊べる場を整備し観光地の創出が必要
- 祭りを継続していくため、若い世代の参加・担い手づくりが必要
- 温泉や空き家を活用した宿泊施設等、地域資源を活用した観光振興が必要　等



※菜の花フェスタ

課題 3 地区の特色である農業の継承と活用

農地・農道等の早急な復旧を図るとともに、担い手となる新規就農者等への支援や農地を活用した取組を進め、農業の継承と活用を図る必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 多くの農地に濁流が流れ土砂が堆積した
- 早期の復旧が必要
- 田んぼの作り手が少なく、後継者も少ない
- 豊かな農地を活用した観光振興
- 田畑のオーナー制度導入　等



※鶴喰地区菜の花畑

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 暮らしやすい住環境創出プロジェクト

○誰もが暮らしやすく、住みたくなる地区を創出するとともに、災害に強い

【具体的な取組】

安全な住まいの再建	・輪中堤もしくは宅地かさ上げによる安全な居住地の確保を図ります。（球磨川沿い）
河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高める取組を進めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道等については住民との連携により取組を進めます。
生活利便施設への連絡	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。
避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難場所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・（指定緊急避難場所：田上社会教育センター） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：百済来スポーツセンター）
災害時の拠点づくり	・災害時の拠点づくりや二見・日奈久方面からのアクセスの向上を図ります。

プロジェクト2 地区の資源を活かした観光・賑わいプロジェクト

○ほたるまつり、お大師さん祭りといった地区に根付く祭りや温泉等、地区

【具体的な取組】

祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。
地区の資源を活用した取組	・鶴喰米・エミュー・温泉・ほたる等、地区の資源を活用し、賑わいづくりを進めます。 ・さかもと温泉センターや釣天広場を活用したキャンプ場などのレジャー施設の整備を検討します。

プロジェクト3 農業継続と農地活用プロジェクト

○地区の特色である農林業を継承していくために、担い手の育成を図るとと

【具体的な取組】

農地・農林道等の復旧や有害鳥獣対策の取組	・令和2年7月豪雨で被災した農地、農林道の早期復旧を図り、地区の基幹産業である農業や林業の生産基盤を整えます。また、農作物被害を軽減するために有害鳥獣対策を進めます。
新規就農者に対するサポート体制の充実	・地区において、新規就農者を積極的に募集するとともに、現役農家によるきめ細かな指導や、農業機械の貸し出し等の積極的なサポートを実施します。
農地を活用した取組	・一日農業体験や農泊（ 農山漁村滞在型旅行 ）、田畑オーナー制度等、地区内外の交流を促す取組や担い手の確保に繋がる取組を進めます。

安全で安心できる住環境をつくります。

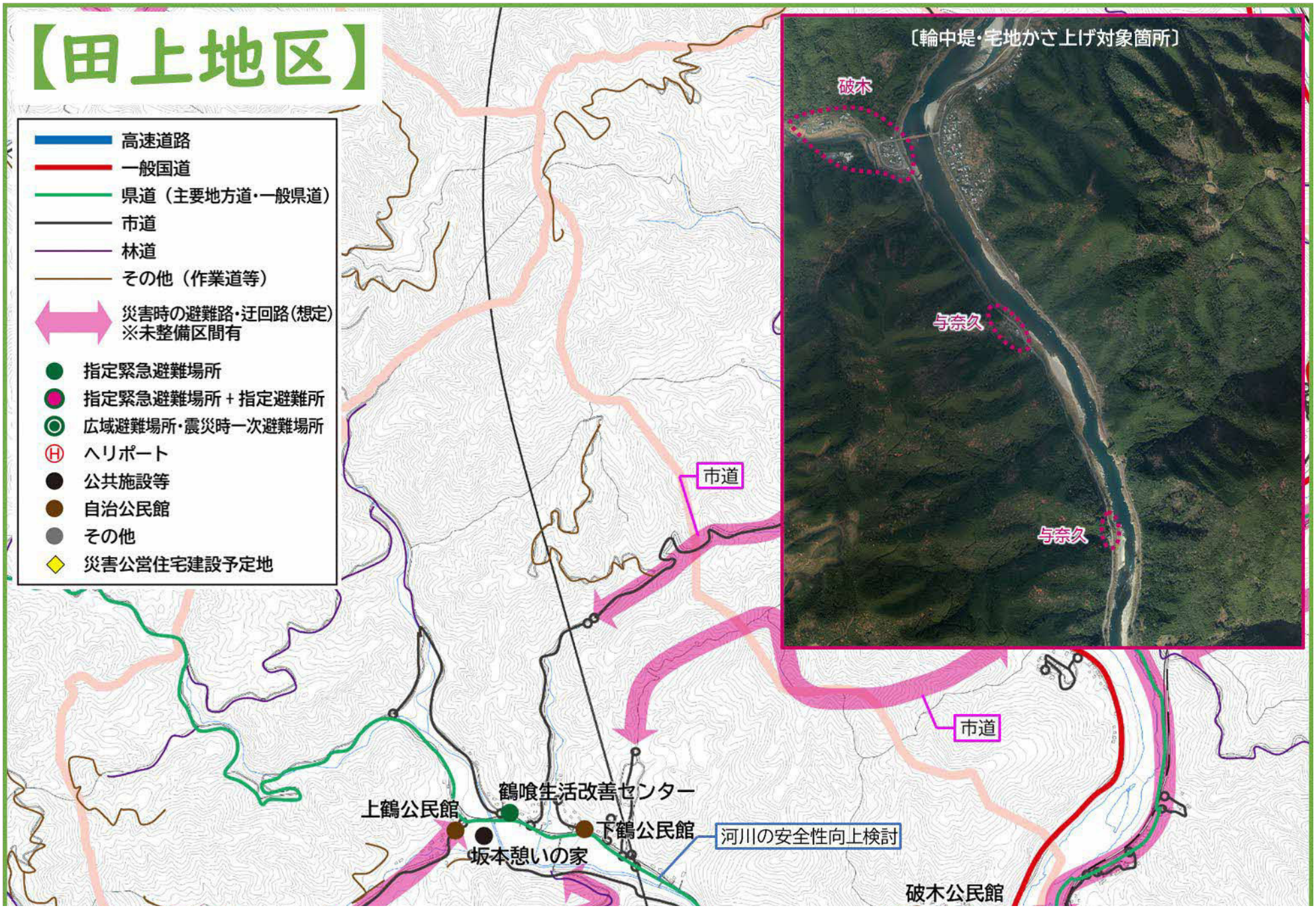
〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和7年度：調査・設計・実施	• 住まいの再建に関する地区ごとの再建意向確認・話し合いの開催	• 居住地・住環境の整備、調整
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 避難場所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成
令和3年度～令和8年度：調査・設計等	• 拠点アクセス確保への現地情報提供	• 災害時の拠点・アクセス性の確保

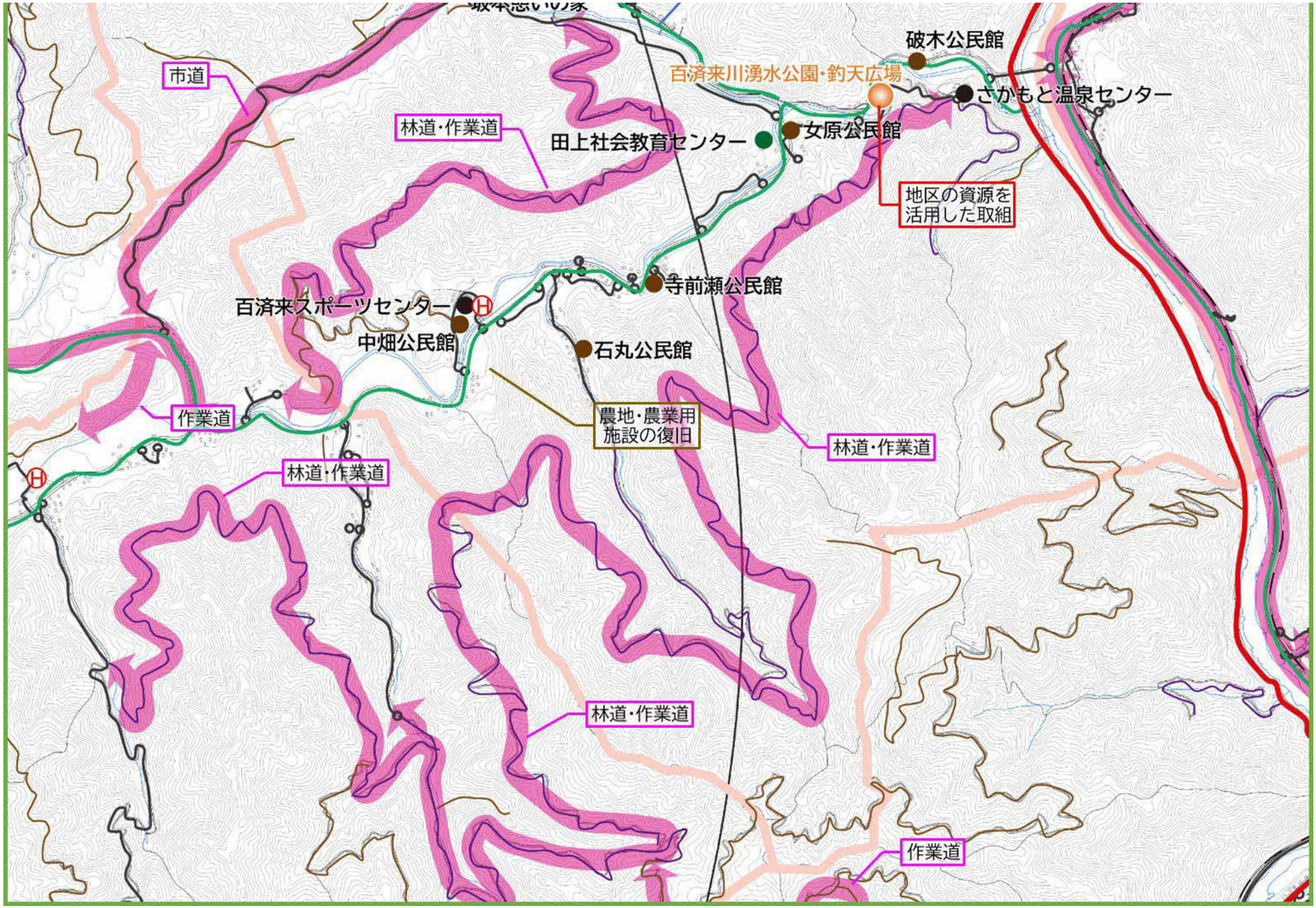
の観光資源を活かした観光振興・賑わいづくりを進めます。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り等の地域情報の発信 • 祭り再開に向けた支援
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 鶴喰米等の販路開拓 • 体験ツアーの受入態勢 • 美しい水辺の維持・管理	• 販路開拓の支援 • 体験ツアーへの支援 • レジャー施設整備の検討

もに、農業体験や宿泊等農地の活用に取り組み、担い手確保や育成を進めます。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：調査・設計等	• 復旧が必要な農地や農林道等の情報提供 • 有害鳥獣に関する情報提供 • 狩猟免許の取得	• 農地や農林道等の早期災害復旧完了 • 狩猟免許取得へ向けた講習会参加助成
令和3年度～令和8年度：検討・実施	• 新規就農者に対する地域でのサポート	• 新規就農者の支援
令和3年度～令和8年度：調査・検討	• 農業体験や農泊、田畑オーナーの受け入れ先の取りまとめなどの協力 • 旅行者受け入れ協力体制の構築	• 農業体験型ツーリズムプランの作成支援及び販路開拓支援 • 田畑オーナー制度導入への支援


【田上地区】
高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路(想定)
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地
〔輪中堤・宅地かさ上げ対象箇所〕
破木
与奈久
与奈久
市道
市道
鶴喰生活改善センター
上鶴公民館
下鶴公民館
坂本憩いの家
河川の安全性向上検討
破木公民館


破木公民館
百済来川湧水公園・釣天広場
さかもと温泉センター
市道
林道・作業道
田上社会教育センター
女原公民館
地区の資源を
活用した取組
寺前瀬公民館
百済来スポーツセンター
中畑公民館
石丸公民館
農地・農業用
施設の復旧
作業道
林道・作業道
林道・作業道
林道・作業道
作業道

8．百済来地区 復興まちづくり計画

■復興まちづくりの目標

自然の恵みと伝統を守る 健康長寿のまち　百済来

久多良木神社、百済来地蔵堂、さくらの雫等の地域資源の活用するとともに、基幹産業である農業を活かし、若者の定住や地区外・市外からの移住をはじめとした百済来地区に関わる人（関係人口）の増加を促進し、お互いに支え合い健康的に長く暮らすことのできるまちを目指します。



▲久多良木神社の森(市指定天然記念物)



▲さくらの雫

■被害の概要

百済来地区は、百済木川や板持川等の氾濫により、37軒の住家被害（一部損壊以上）が発生しました。

農地への土砂の流入・堆積も発生しており、基幹産業である農業にも大きな影響が生じ、また地区内の各所で道路や農道の損傷、河川護岸の損傷等の被害が発生しているほか、河川への土砂堆積や落石、山林の荒廃が一因になったと考えられる倒木の河川への流入等も見られました。

▼住家被害状況(り災)

区分	坂本町全域	百済来地区
全壊	158	3
大規模半壊	66	0
中規模半壊	10	0
半壊	110	14
準半壊	1	0
一部損壊	94	20
合計	439	37

※令和3年9月末時点



▲板持川氾濫状況



▲小川内地区農地・農道被害状況

■復興に向けた課題

課題1 子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる環境づくり

災害に対する安全性の向上はもちろんのこと、子どもや高齢者まで安全・安心に暮らすことができる、環境づくりが課題となっています。

地区別懇談会などでの意見

- 河川護岸の復旧やかさ上げ、落石･土砂･倒木の早急な撤去が必要
- 各集落の水道設備が被災し断水が発生
- 公共交通が不便で高齢者が買い物・通院等の交通手段に困っている
- 道路が狭く市街地からも離れているため若い人が残りにくく、外からも人が来にくい
- 子どもが少ない
- 若い人にもう一度地区の活性化に尽力して欲しい
- 荒廃した山林の整備が必要
- 県道破木二見線の拡幅、市道･農道･林道の整備が必要
- 道路の復旧、拡幅が必要
- 遠方の避難場所に行くのが困難な場合、集落単位で避難場所を決めておくとよい　等



※百済木川上流河川内土砂掘削

課題2 地区内外の交流によるコミュニティの維持・強化

祭りの再興等を通じて地区内がつながり、社寺や湧水等の地域の魅力を活かしながら地区内外の交流を促進し、コミュニティの維持・強化を図る必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- コロナ禍で集落の祭りや集会が小さくなり地区のまとまり・横のつながりがなくなった
- 祭りをしても人が集まらないため、坂本町全体で百済来地区の祭りをアピールする必要がある。
- 久多良木神社、百済来地蔵堂、祭りの再興
- 地域の伝統の継承が必要
- 「名水さくらの雫」にはたくさんの人が来るため周辺の整備が必要
- 坂道が多くサイクリストに好まれているため自転車やバイクのツーリング利用で活用できないか
- 日羅さんを中心とした史跡や湧水を売りとする地域であり、仏教の出発地である聖地　等



※百済来地蔵堂(市指定有形文化財「建造物」)

課題3 基幹産業である農業の維持・振興と活用

農地や農業施設の早急な復旧を図るとともに、移住･定住、新規就農者の支援など、地区の“外”の力も得ながら基幹産業である農業の維持・振興と活用を図る必要があります。

地区別懇談会などでの意見

- 農地に土砂が流入・堆積していて、農業が再開できない
- 農業従事者が高齢化しており、後継者も少ない
- 送水管の移設が必要
- 林内作業員の確保
- 若者が集まる・定住させる現場づくり
- 就業の場となる企業の誘致
- 有害鳥獣への対策が急務　等



※百済来地区での稲刈り

■復興まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 安全・安心な暮らしプロジェクト

○災害が発生しにくい、発生した場合でも被害が抑えられる地区づくりを進める環境をつくります。

【具体的な取組】

河川の安全性向上	・護岸の復旧や、河川内の土砂･落石･倒木等の撤去を行うことで、災害に対する安全性を高めます。
道路の安全性向上	・日常の生活や経済活動の基盤となり災害時には避難ルートとしての役割も果たす道路の安全性向上に向けて、国・県道について要望を行うとともに、市道等については住民との連携により取組を進めます。
生活利便施設への移動手段の確保	・地区の生活を支える商業や医療施設等、生活利便施設への移動手段の確保を図ります。
避難所の確保と避難情報の伝達	・地区内の避難所を確保するとともに、避難行動要支援者（高齢者等）への対応、災害時の情報伝達手段を確保します。 ・地域のイベントなどで使用されている久多良木社会教育センターに照明の整備を検討します。 ・（指定緊急避難場所：久多良木多目的集会施設） ・（災害時のヘリコプター臨時発着場：久多良木社会教育センター）

プロジェクト2 地区の魅力を活用した交流促進プロジェクト

○久多良木神社や百済来地蔵堂、名水さくらの雫、祭り等の “地域のお 推進します。

【具体的な取組】

祭りの振興・復活	・地区に伝わる祭りの振興や復活により、コミュニティを活性化し、地区に関わる機会や地区外との交流を促進します。
地区の資源を活用した取組	・神社・仏閣や、さくらの雫周辺等地区の魅力資源として磨き上げ、地区のシンボルとして活用します。 ・自転車やバイク等を利用したツーリズムで、地域おこしに向けた地元の受入れ体制を構築します。
伝統の継承・保全	・地区の伝統芸能や神社地蔵堂等を将来的に伝承できる仕組みづくりに取組ます。

プロジェクト3 多様な担い手による“にぎわう”農林業プロジェクト

○基幹産業である農林業の生産基盤を整えるとともに、様々な形で農業に

【具体的な取組】

農地・農林道等の復旧や有害鳥獣対策の取組	・令和2年7月豪雨で被災した農地、農林道等の早期復旧を図り、地区の基幹産業である農業や林業の生産基盤を整えます。また、農作物被害を軽減するために有害鳥獣対策を検討します。
新規就農者に対するサポート体制の充実	・地区において、新規就農者を積極的に募集するとともに、現役農家によるきめ細かな指導や、農業機械の貸し出し等の積極的なサポートを実施します。
農地を活用した取組	・一日農業体験や農泊（農山漁村滞在型旅行）等、地区内外の交流を促す取組・担い手の確保に繋がるよう取り組みます。 ・遊休農地や耕作放棄地を活用し、果物等の新たな作物の検討を進めます。

めるとともに、日常生活においても子どもから高齢者まで、支え合いながら安心して暮ら

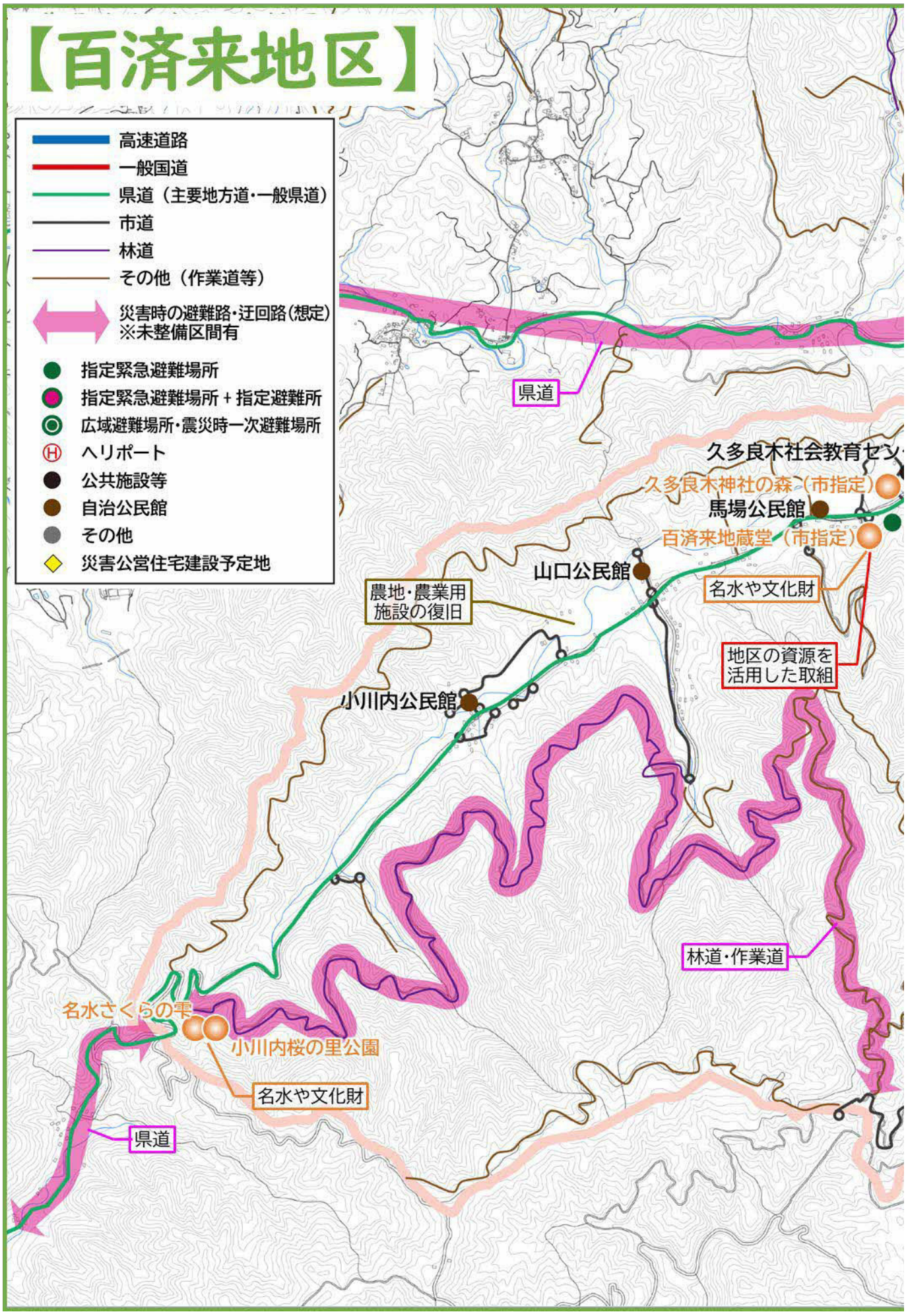
〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 河川整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 定期的な巡回による安全点検 • 早期災害復旧完了
令和3年度～令和8年度：調査・検討・実施	• 道路整備が必要な箇所の情報提供 • 地区ごとの優先箇所の取りまとめ	• 道路の整備
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• 移動サービスに関する要望の取りまとめ、利用促進	• 公共交通の適宜見直し
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• マイタイムライン（私の避難計画表）の作成 • 定期的な避難訓練の実施 • 自主防災組織の活動	• 避難情報の伝達 • 避難場所や避難路の確保 • 自主防災組織の育成 • 市有施設の設備整備

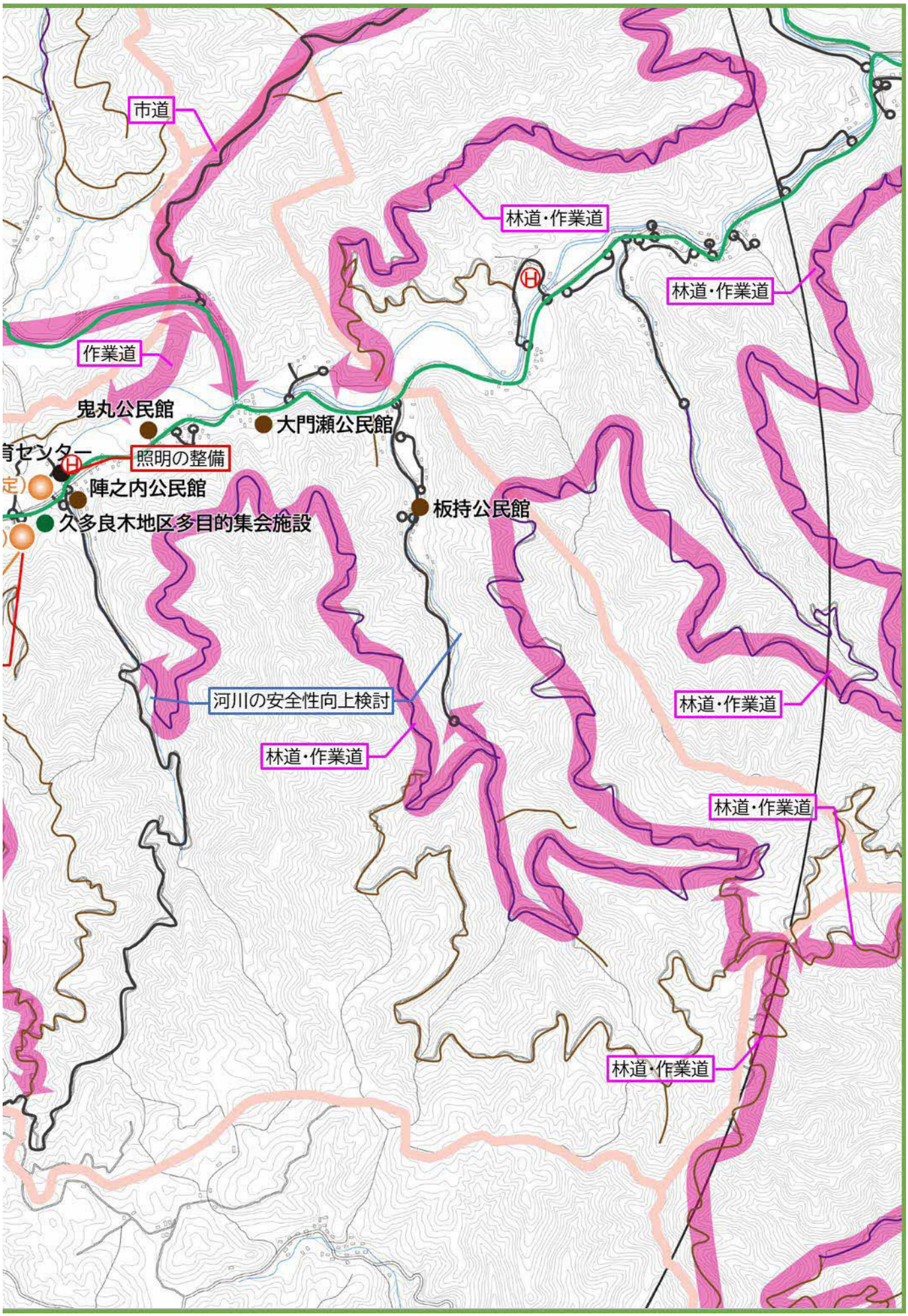
宝”を磨き上げ、自転車やバイク等を利用したツーリズムを活用し、地区内外の交流を

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：確認・検討	• 祭り等の運営、コミュニティ活動の活性化	• 祭り等の地域情報の発信 • 祭り再開に向けた支援
令和3年度～令和8年度：確認・検討・実施	• さくらの雫周辺の維持・整備 • 自転車やバイクツーリング受け入れに対する地元協力 • 新たな絶景スポット等、穴場情報の提供	• 桜の満開時期のさくらの雫等を広報・ＰＲ • 自転車・バイクツーリズム情報サイト等への情報発信
令和3年度～令和8年度：募集・確認・検討	• 神社、地蔵堂等の維持・管理や伝統芸能の継承	• 歴史文化資源の維持や管理に対する協力

関わる機会を増やすことで、農業を軸としたにぎわいの創出を図ります。

〔取組期間〕	地域の役割	行政の役割
令和3年度～令和8年度：調査・設計等	• 復旧が必要な農地や農林道等の情報提供 • 有害鳥獣に関する情報提供 • 狩猟免許の取得	• 農地や農林道等の早期災害復旧完了 • 狩猟免許取得へ向けた講習会参加助成
令和3年度～令和8年度：検討・実施	• 新規就農者に対する地域でのサポート	• 新規就農者の支援
令和3年度～令和8年度：調査・検討	• 農業体験や農泊受け入れ先の取りまとめ • 旅行者受け入れ協力態勢の構築 • 新規導入作物の検討・生産	• 農業体験型ツーリズムプランの作成支援及び販路開拓支援 • 担い手の募集や施設整備への支援 • 新規導入作物の検討・支援


【百済来地区】
高速道路
一般国道
県道（主要地方道・一般県道）
市道
林道
その他（作業道等）
災害時の避難路・迂回路（想定）
※未整備区間有
指定緊急避難場所
指定緊急避難場所＋指定避難所
広域避難場所・震災時一次避難場所
ヘリポート
公共施設等
自治公民館
その他
災害公営住宅建設予定地
県道
久多良木社会教育セン
久多良木神社の森（市指定）
馬場公民館
百済来地蔵堂（市指定）
山口公民館
名水や文化財
農地・農業用施設の復旧
地区の資源を活用した取組
小川内公民館
林道・作業道
名水さくらの雫
小川内桜の里公園
名水や文化財
県道


市道
林道・作業道
林道・作業道
作業道
鬼丸公民館
大門瀬公民館
照明の整備
陣之内公民館
久多良木地区多目的集会施設
板持公民館
河川の安全性向上検討
林道・作業道
林道・作業道
林道・作業道
林道・作業道